

遊学の日々有情

木村 喜代志

ページをクリックするとそのページに移動します

1. サクランボと小麦

P.2~P.14

2. 餃子とカレー

P.15~P.24

3. 日本の面積と色とりどりの海

P.25~P.38

4. 遺跡が活動し始める時間と国民の祝日・年次有給休暇

P.39~P.54

5. 70歳からのスキーと中秋の名月

P.55~P.67

1. サクランボと小麦 (P.3~P.14)

ページをクリックするとそのページに移動します

○ サクランボ : P.3

○ ラ・フランス : P.4

○ リンゴ : P.5

○ ブドウ : P.6

○ ジャガイモ : P.7

○ 枝豆 : P.8

○ アンデスメロン : P.9

○ キューイフルーツ : P.10

○ バナナ : P.11

○ トウモロコシ : P.12

○ 小麦と大麦 : P.13

○ 茶 : P.14

サクランボ（桜桃、桜ん坊）

サクランボは形といい、色合いといい、見るからに可愛い果物である。甘酸っぱい繊細な味は初夏を代表する味であり、初恋の味に例えられるし、桜桃口というと美しい女性の唇を表わす。サクランボは有史前から食されている古い果物である。バラ科の植物でイラン北部からヨーロッパ西部にかけて野生の甘果桜桃とアジア西部トルコ辺りの酸果桜桃の西洋実桜（ミザク）が原種とされている。紀元前 65 年にトルコ北部、黒海地方のギレスンからローマに伝わり、ヨーロッパに広まった。本格的な栽培は 16 世紀頃とされ、日本には 19 世紀中頃、明治初期にドイツ人によって北海道に導入され、その後東北に伝播した。なお、日本の国花である観賞用のサクラとは、バラ科サクラ属で広義的には同じ「桜」だが、決定的な違いは「種」が異なることである。サクランボの種は西洋実桜で佐藤錦や紅秀峰などの食用種である。これに対してサクラは観賞用に作られたものでソメイヨシノが有名である。小さな実はなるが、酸味と苦味で食用にはならない。なお、サクランボの花は、観賞用の花に似ているが上品な白色の花びらで、開花は観賞用サクラとほぼ同じ頃である。

世界で栽培されているサクランボの種類は 1,000 種ほどで、生産量は本家本元のトルコを筆頭にアメリカ、イラン、日本と続いている。イランとトルコで食べる機会があったが、日本のものより黄白色で酸味が強かった。日本国内を見ると栽培品種は 100 種ほどで、生産量は山形、北海道、山梨、秋田と続く。山形県は国内生産の 70% を占め、なかでも「佐藤錦」の生まれ故郷ある東根が排水の良い扇状地を利用し県内最大の生産量を誇っている。県園芸農業研究所のお膝元の寒河江もまた扇状地を栽培地として生産量を増やしている。山形と言えばサクランボ、サクランボと言えば佐藤錦を連想する。佐藤錦は、東根の篤農家佐藤栄助氏が、日持ちが良くないが味の良い品種と、酸味が強いがかたく日持ちの良い品種から生まれた。近年、ブームに乗って県主導で新品種、紅秀峰、紅さやか、そして 2022 年に大玉の「やまがた紅王」が誕生している。同時に価格の上昇が続いている。

サクランボの弱点は、気温特に霜に弱く、雨に当たると実割れする。また灰星病にかかり易く、鳥類の格好の餌食になる。それで雨除けハウス内で喚起に気を配る。サクランボは自然のままでは受粉しないので、ハウス内に葦を束ねてマメコバチの巣を作り、力を借りて受粉するなど繊細な気配りをしながら大切に育てられる。サクランボのもう一つの弱点は、孟宗筍やトウモロコシ、枝豆などと並び収穫後は急激に鮮度が落ちることである。サクランボは、果実が冷たいうちの朝採りが絶対条件となる。

山形県には東根、寒河江を始めとするサクランボ、鶴岡湯田川と早田の孟宗筍、鶴岡の枝豆だだちゃ豆、月山高原のアスパラガス、西川町大井沢のトウモロコシなどなど鮮度を売りにする特産物が多い。鶴岡で仲間と食べた生のだだちゃ豆とトウモロコシのかき揚げ、さっと塩をふって炭火で焼いたアスパラガスの香りと味が忘れられない。生産地という地の利を生かし「おいしい山形」を是非実感したいものである。

ラ・フランス

日本の豊かな四季を感じられるものの一つに果物がある。山形県はフルーツ王国である。イチゴ、サクランボ、メロン、スイカ、ブドウ、カキ、ラ・フランス、リンゴなどなど季節ごと収穫されている。なかでも山形県のラ・フランス生産は、世界の約80%を占めている。

ラ・フランスは1864年、フランス（クロード・ブランシュ氏）で発見された。西洋ナシの品種改良ではなく、西洋ナシの一種の果物である。他の果物にない滑らかな舌触り、上品な甘さ、爽やかな酸味、香り豊かな果汁などから「果物の女王」とも呼ばれ、「フランスを代表するに相応しい果物」と称えられ「ラ・フランス」の名前がついたと言われている。しかし、果物の多くは開花から1~3ヶ月で収穫できるが、ラ・フランスの開花が5月初めで、収穫が10月中旬で約5ヶ月を要する。加えて病害に弱く、長雨や強風にも弱いなどで栽培が難しい。日射量と降水量に左右され、冷涼な気候を好むなど気候的な条件から、フランスでは敬遠されて1900年代に絶滅してしまった。それを知った天童市農協が、原産国への敬意と感謝を込めて、1991年にフランス国立農業研究所に苗木（100本）をプレゼントした。今日では日本が世界唯一の生産国である。

ラ・フランスと山形県の関係を見てみると、西洋ナシが県内に入ってきたのは1875（明8）年、ラ・フランスは1893（明26）年頃である。ところが、見た目の悪さから、山形弁で「みたぐなす」、見栄えが悪く格好悪いナシとして卑下する意味の言葉で呼ばれていた。ラ・フランスは熟しても果実に変化が見られない、追熟による食べ頃の見極めの難しさに戸惑い普及に至らなかった。4西洋ナシ栽培が盛んになったのは1909（明42）年頃、ラ・フランスが食べられるようになったのは1985（昭60）年代、苗木が入って来てから実に100年近くも経過してからだった。言葉を換えれば、100年の下済み時代を経てようやく陽の目を見た果物で、頑張り屋の東北人、山形県人気質に一脈通じるものを感じる。今日では西洋ナシの70%がラ・フランスで、「洋ナシ」の一種から「洋ナシ」イコール「ラ・フランス」の地位を占め、別名「バター・ペア」、とろけるナシと呼ばれようになり、秋の味覚としてようやく定着した。

山形県がラ・フランスの独占的な地位を占めるようになったのは、中心栽培地が盆地で昼夜の寒暖差が大きく甘く大きな果実を育て、梅雨期の降水量が比較的少なく、台風襲来も少ないなどの自然環境に恵まれたこと、栽培者による摘花の繰り返しで約10~20%の厳選された果実のみを育てるなどの努力と、県とJAによる難しい収穫と食べ頃の最適時期を設定など官民一体の努力があった。その結果、1970年頃から注目され始め、1985年頃によりよく生産体制が確立された。近年では台湾、香港、シンガポールなどアジア諸国への輸出し始めるまでになった。本家本元で栽培を諦めたラ・フランスは、日本人によって蘇った。しかし、「ザ・ジャパン」でも「ザ・ヤマガタ」でもなく「ラ・フランス」のままであるのは原産国へのリスペクトと共に、日本人特有の奥ゆかしさの表れだろうか。

リンゴ

リンゴは「アダムとイブ」の物語に登場する歴史の古い果物である。人類が食べた最古の果物とされ、約 4,000 年前から食べられていた。他にも、息子の頭上のリンゴを弓矢で射るウィリアムテル、木から落ちるリンゴを見て万有引力の法則を発見したニュートン、白雪姫の独リンゴなど人間と関わりの深い果物である。原産地は黒海とカスピ海に挟まれたコーカサス地方で、ヨーロッパ、アメリカ経由で明治時代に日本に伝わってきた。リンゴは冷涼な夏の気候を好むことから温帯の北部で盛んに栽培されている。生産量を見ると中国が圧倒的で世界の約半分を生産している。続いてアメリカ、トルコ、ポーランド、インドと続く。栽培品種は世界で 15,000 種と多く、日本だけでも 2,000 種に及ぶ。日本で、世界で最も多く栽培されているのが、1939 年に青森生まれの「ふじ」である。ほかにも「王林（1952・福島）」、「陸奥（1930・青森）」、「世界一（1930・青森）」、「印度（1875・弘前）」などなどで、日本生まれの品種である。日本で生産量の多いのは青森県 60.7% で長野 17.7%、岩手 6.2%、山形 5.4%と続く。なお、店頭で「ふじ」と「さんふじ」を見かけるが、違いは袋をかけて、かけずに栽培の違いで、袋なしが「さんふじ」で、こちらの方が美味しいと聞いた。日本で普段食べているリンゴは、世界的にみると美味過ぎて別格である。これまでヨーロッパ、アジア、北アメリカの国々やオーストラリアで食べる機会があったが、日本のものと比べると小粒で、歯触りが全く違う。旨みにも大きな違いがある。諸外国の食べ方は丸かじりが一般的である。自分は門歯が義歯のため丸かじりができない。アフリカ旅行中、ナイフで割っているうちに無意識に皮をむいてしまった。これを見ていた 30 代半ばのオーストラリア人がおどけて皮を食べた。オーストラリアは消毒なしでリンゴ栽培ができる世界唯一の国である。日本の美味しいリンゴは病原菌も虫も大好きである。日本の農薬散布は 20 種類ほどの病害虫を防除対象にして、収穫までに少なくとも 15 回以上行われる。日本と諸外国の食べ方の違いの原因となっているのだろう。日本に次いでリンゴが美味しかったのはインドのヒマラヤ山麓の避暑地で知られるヒマーチャルプラデッシュ州マナリ地区であった。パンジャブヒマラヤ行で雇用したシェルパの故郷で、リンゴ園のオーナーでもあった。山中での単調な食生活の後だけにことのほか美味かった。

リンゴは健康食材でも知られ、イギリスウェールズ地方の諺に “An apple a day keeps the doctor away”（一日一個のリンゴは医者を遠ざける）、日本には「リンゴ（カキ）が赤くなると、医者が青くなる」などが知られている。また、ドイツ語でジャガイモのことを「大地のリンゴ」、イタリア語でトマトのことを「黄金のリンゴ」という。

リンゴは日本が誇る果物の代表格だけに歌にも数多く唄われている。終戦直後の日本人に生きる希望を持たせてくれた「リンゴの唄」をはじめ、「りんごのひとりごと」、島崎藤村の「初恋」などが思い浮かぶ。日本人にとってリンゴは、健康果物と同時に心の果物でもある。心の奥深くまで沁み込んだ真っ赤な太陽である。

ブドウ

ブドウの原産地はコーカサス、カスピ海沿岸で、ここから地中海沿岸へと広まった。古代エジプトの壁画に見られることから紀元前 4000 年頃から栽培されていた。今日のブドウの品種は数千種とされているが、原種はヨーロッパ種とアメリカ種の二つだという。ヨーロッパ種は降雨量の少ない地域向きで主にワイン用。一方、アメリカ種は比較的降水量の多いアメリカ東海岸で、日本向きで生食用に品種改良されてきた。ブドウは温帯の果物で平均気温 10℃から 20℃程度の地域で北緯 30 度から 50 度、南緯 20 度から 40 度、降水量は年間 500 から 1,600 mm 辺りが主産地となっている。1980 年代前半までは世界で最も生産量の多い果物であった。20 世紀に入り急増したバナナ、柑橘類に抜かれ、近年はリンゴに追いつかれつつある。ブドウの用途はワインやブランデーなどのアルコール飲料をはじめ生食、乾燥させてレーズン、ジュースやジャムなどの原料と多岐にわたる。世界的に見ると生産の 71% がワイン、27% 生食、2% がレーズンとなっているが、日本に限ると 90% が生食でワイン用は 1% で、日本の特異な現象である。生産量を見ると (2010)、中国 12.7%、イタリア 11.4%、アメリカ 9.1%、スペイン 9.0%、フランス 8.6% と続く。

日本への伝播は、奈良時代にシルクロードを経て唐から、あるいは 718 年に高僧行基が甲斐国勝沼へ、平安末の 1186 年に甲斐国の人山中で珍しい果物を見出し育てたなどの諸説あるが、現在の山梨県甲府市で栽培が始まった。鎌倉時代に盛んになり、江戸時代には「甲州ブドウ」の名声が広まった。日本では山梨 (25%)、長野 (17%)、岡山 (9%)、山形 (9%) の順で、ミカン、リンゴ、和ナシ、カキに次ぐ生産量である。ブドウの主成分はブドウ糖と果糖である。体内に入ると直ぐにエネルギーに変化するので疲労回復に効果的である。また、皮にはアンチエイジングや視力機能回復などの効果があるという。ブドウの二大用途はワインと生食だが、食べて美味しいブドウがワインにしても必ずしも美味しいとは限らないという。生食が好まれる日本の収穫期は、最も早いのがデラウェアで 7 月下旬から最も遅いのは 11 月上旬だが、年々新たなブドウが店頭を飾る。ピオーネ、ブラックビート、サニールージュなどなどである。なかでも、1988 年に日本で開発され、2006 年に品種登録されたシャインマスカットは、甘さ、香り、種なし皮ごと食べられる食べ易さから国内外で人気が高い。それにしても、近年の日本のブドウは美味すぎて高価過ぎる。

ブドウの蔓を図案化したものを「唐草文様」と呼んでいる。パルテノン神殿のギリシャ建築や古代エジプト建築に見られ、これもシルクロードを経由して日本に入ってきた。ただし、「唐草」という植物は存在しない。元々、唐草文様は、蔓草の茎や葉が絡み合って曲線を描く文様で、生命力が強く途切れることなく蔓をのばしていくことから長寿、子孫繁栄といった縁起が良いものとされてきた。江戸時代に風呂敷に用いられ、明治時代に一般化し、昭和に入ると大流行した。ところが、唐草模様の風呂敷や手ぬぐいは泥棒の頬被り、盗品を包むもののイメージがある。縁起の良いものだけに大流行し、目立たない、怪しまれないことから泥棒漫画に取り入れられて定着したとされている。

ジャガイモ

日常生活で特別意識することもなく食べているものの中に、南アメリカ大陸原産のものが多くみられる。ジャガイモとトウモロコシをはじめとしてインゲン豆、トマト、トウガラシ、カボチャ、ピーナッツ、イチゴ、パイナップルなどである。

ジャガイモの原産地はアンデス山中のチチカカ湖周辺といわれている。栽培は紀元前 5 世紀頃から始まり、インカ帝国の重要な食べもので、エネルギー源となっていたと考えられている。16 世紀、コロンブスによってヨーロッパに持ち込まれ、オランダなどの海外進出に伴って急速に全世界に広まった。冷涼な気候や痩せた土地にも強く、現代でも広く栽培されており、緯度で見るとチリからグリーンランドまで、標高は海岸から 4,700m に及ぶ。世界の栽培面積はコムギ、トウモロコシ、イネに次いで 4 位の重要作物となっている。栽培品種が非常に多く、世界では 4,000 以上で、そのほとんどがアンデス地域に集中していると聞く。日本だけでも 99 品種登録されている。ペルーとボリビアの露店で売られているインディヘナ栽培のジャガイモは、日本と違い白、赤や黒などいろいろな色、形のもものが並び、種類の多さに驚かされた。重要な作物だけに病気や虫の被害から逃れるために多種多様な種類を栽培しているのだという。

ジャガイモは揚げる、蒸す、茹でる、煮込む、更にはコロケやポテトチップスなどの加工食品やデンプンの原料など用途は広い。保存がきく野菜の一種として扱われているが、主食ともなる貴重な作物である。ヨーロッパでは 18 世紀の戦争と飢饉の繰り返す中でじゃがいもの重要性が増し、最も重要な農作物の一つになった。ヨーロッパの中で、ドイツ人とジャガイモの結び付きが殊の外強い。17 世紀以降に伝わり、本格的な栽培が始まった。氷河に覆われたドイツは土壤が痩せている食物不毛地帯、ソーセージなどの保存食と共に国民の主要な食べものとして利用されてきた。食の多様化の進んだ今日でもドイツのジャガイモ消費量が、ヨーロッパで飛び抜けて多い。ドイツ南部は北海道とほぼ同じ緯度で、ジャガイモ栽培が盛んで美味しい。ドイツ人にとってジャガイモは、日本人の米以上である。時には主食であり、副菜であり、サラダやデザートと変幻自在である。

アジアで最も早くジャガイモを取り入れたのはインドで、1600 年代にポルトガルの航海者たちが持ち込んだ。その後、イギリス人がインド北部の丘陵地帯で栽培を進め、小麦と並ぶ主食の域までになった。世界の生産量（2022 年）を見ると、中国とインドが別格で、ウクライナ、ロシア、US、ドイツと続く。

日本には 17 世紀初め、ジャワのジャカルタからオランダ船で入ってきた。北海道では馬鈴薯とも呼ぶが、字の通り馬に着ける鈴に似ていることからの呼称である。教え子で大学山岳部の 2 名と奥又白池をベースにして前穂高、ベースを涸沢に移して滝谷で岩登りを楽しんだことがあった。打上の夕方、微塵切りの玉ねぎとコンビーフを炒め、マッシュポテトと混ぜ合わせた。揚げたてのコロケの熱さと涸沢の冷気が妙にマッチして美味しかった記憶が蘇る。

枝 豆

枝豆は大豆の未成熟の実を若採りしたもので、緑黄色野菜に分類される。江戸時代、枝についたまま茹でて売られていたことから枝付き豆、枝なり豆から枝豆となった。大豆の起源は、中国北部やシベリア、日本などに自生していたノマメとされている。この種子を昔から食用にしていたが、シベリアやアムール川流域の古代人によって栽培されるようになり、栽培大豆が始まった。日本では縄文文化の遺跡から出土するが、ノマメか栽培大豆かは不明である。しかし、古事記（712年）や日本書紀（720年）には大豆が記載されているので、この頃には普及していたと考えられる。18世紀に中国、日本から海路でヨーロッパに伝わり、更にヨーロッパからアメリカへと広まった。なお、黒船のペリーも1864年に日本から種子を持ち帰ったことが知られている。

枝豆はさやの緑色が濃く、ふっくらとして産毛が密生しているのが良品とされている。日本各地に在来種があり、その数400種を超えると言う。なかでも山形の「だだちゃ豆」、兵庫の「丹波篠山黒枝豆」、群馬沼田の「天狗印枝豆」はじめ福島の「かおり豆」、岩手の「におい豆」、新潟の「くろさき豆」などが知られている。なお、近年の世界的な健康志向、日本食ブームにより低カロリー、高タンパク質、外国に多いベジタリアンやビーガンでも食べられることが人気を後押し、2000年頃から欧米でも人気が高まり“green soy beans”または“edamame”として日本食の寿司や天ぷらに匹敵するようになった。主な生産地は北海道、群馬、千葉、山形、秋田などが知られているが、国内生産量と同じ位の量を冷凍で中国を中心に外国から輸入している。

全国ブランドとなった鶴岡の「だだちゃ豆」は江戸時代からトウモロコシのような甘い香りとコク、深い味で知られている。鶴岡市内を流れる湯尻川扇状地の大泉地区白山が主産地で、産毛が薄い茶色、くびれが深く、豆は2粒が基本とされている。各農家が選抜淘汰を繰り返し、自家採種という生産者の情熱と地域挙げての競う合った賜物である。また、庄内藩主酒井家がだだちゃ豆を鶴岡の特産品として奨励し生産者を励ましたことも大きい。だだちゃ豆は小真木、甘露、白山、平田、尾浦など8品種あるが、7月20日頃過ぎに出る「白山」が最高の味とされている。

枝豆は鮮度落ちが早いことでも知られており、収穫後直ぐに食べるに限る。枝豆は茹でただけだが、茹で方によって美味さが大きく変わってくる。茹で過ぎは厳禁である。近年、枝豆の収穫は早朝よりも正午頃から夕方にかけての収穫の方が甘味、うま味が増すといわれている。朝採りが重視されたのは、流通などを考慮し、当日消費を目指したことによるらしい。茹でた枝豆の他に、香りと味を楽しむ豆ご飯、すりつぶし味付けしてナスやアケビなどの和え物、荒く磨り潰して餡かけ、更には、さやごと煮込んだ味噌汁などがある。バンコックからカトマンズへ機内で乾燥枝豆にであった。その後、国内でも見かけたが最近殆ど見かけなくなった。

何はともあれ地元民は、豆と野菜双方の栄養特徴を有し、夏の元気の素としてだだちゃ豆のシーズン到来を毎年心待ちにしている。

アンデスメロン

メロンの故郷は東アフリカと考えられていたが、近年インドであることが判明した。ここからペルシャ（イラン）、古代エジプト経由でヨーロッパに広まった。メロンには、南欧やエジプト方面で発達したヨーロッパ系メロンと、中国で発達した東洋系メロン、マクワウリがある。今日では甘味や香に優れたヨーロッパ系が主流となっている。

ヨーロッパ系メロンが日本に入ってきたのは明治中後期頃とされている。そして、日本におけるメロンの大衆化は1962年で、東洋系のマクワウリとヨーロッパ系メロンから生まれたプリンスメロンの栽培とされている。今日のメロンの種類は300種を越すが、大きく分けると夕張メロンやクインシーなどの赤肉メロン、アンデスメロンやマスクメロンの青肉メロン、ホームランなどの白肉メロンの3種類に分けられる。世界の生産を見ると中国がおよそ半分を生産し、続いてトルコ、インドと続く。日本では茨城をトップに熊本、北海道、山形と続く。

山形で生産されているメロンの多くは日本海沿岸の砂丘で栽培されている。「庄内砂丘メロン」のブランド名でアンデスメロン、鶴姫、クインシーなどだが、アンデスメロンが広く知られている。黄緑色の瑞々しい果肉で、安定した甘さが特徴である。日持ちも良く、他の品種に比べると安価で人気がある。アンデスメロンは、農家にとっては栽培しやすいことから「生産者は作って安心」、日持ちが良いことから「流通は売って安心」、消費者にとっては比較的安価ということで「消費者は買って安心」の「アンシン」を冠にした「アンシンデスメロン」が発案された。しかし、品種名としては長すぎるので「シン」をとって「アンデスメロン」となり、大衆メロンとして親しまれるようになった。当然、南米のアンデス山脈とは全く無関係で、1977年にサカタのタネが交配育成しかいはつした純国産メロンである。

庄内地方の鶴岡、酒田、遊佐が主産地になったのは砂丘のお陰である。昔は季節風による飛砂の猛威に晒され、長い間不毛の地であったが、300年ほど前の江戸後期に酒田の大地主本間家の第三代目当主、本間光丘の努力によりクロマツの植林によって砂防林が形成され、水田を守ると共に砂丘の耕地化が進み、様々な畑作物の栽培が可能になった。砂丘地でのメロン栽培は1918年（大7）からで、本格的な栽培は1936年（昭6）から始まる。その裏には1927年（昭2）に渡米してノウハウを学んだ庄内人がいた。カルフォルニアでの露地栽培を手本に始まったが、戦争で中断を余儀なくされた。そして、1967年（昭42）にプリンスメロンで栽培地が急拡大し、1977年（昭52）からアンデスメロンが主流を占めるようになった。庄内砂丘メロンが美味しい理由は、砂は熱しやすく、冷めやすいことから1日の温度差が大きいこと。砂地ということで水はけが良いことである。これらが甘味を強くし、食味を引き上げ濃厚な味になると言われている。メロンには血行促進、免疫力アップ、美肌効果などが期待できることから、「健康と美」の果物とされているが、スペインの諺に「メロンと結婚は、当たり外れ」があるし、俗語に「メロン、メロン」がある。

キュイ フルーツ

ニュージーランドは、キュイフルーツの産地としても有名である。もともとは中国原産の果物で、中国では「ヤンタオ」と呼ばれていた。20世紀初めにニュージーランドに持ち込まれた時は「チャイニーズ グーズベリー」と呼ばれていた。これを品種改良し、ニュージーランド特産品として世界中に広めるのにふさわしい名前を探していた時、国鳥であるキュイ、見た目が丸く茶色に似ていることから1959年にキュイフルーツと命名された。

ニュージーランドは日本と同様南北に細長い島国であり、赤道を挟んで同じくらいの緯度に位置し、四季がある。近海で寒流と暖流が合わさりシーフードにも恵まれている。どちらも環太平洋造山帯に属しており、火山や地震、温泉も多く、日本と良く似ており親しみを覚える国である。

キュイフルーツはニュージーランド農作物輸出額の約半分、総輸出額の11.1%を占め、世界50カ国に輸出されている。世界生産（2022年）を見ると、中国が他を圧倒し2位のニュージーランドの約4倍を生産している。日本には1966年にアメリカから入ってきた新しい果物である。愛媛のミカン農家が転作作物として栽培してから普及した。日本では愛媛、福岡、和歌山、神奈川などが主産地で、それぞれの産地ごとにハイワード、あしがらキュイ、さぬきゴールドなどオリジナルの品種が開発されている。どれも爽やかな酸味と甘味が売りの果物だが、木では完熟せずバナナやラ・フランスやアボガド同様追熟が必要である。キュイフルーツは抗酸化作用、免疫力アップ、美肌効果と良いこと尽くめで、花言葉は「生命力」である。

キュイフルーツは、マタタビ科マタタビ属の果実で、日本に昔からキュイフルーツと同じ仲間である野生のマタタビ、サルナシ（コクワ）が自生している。マタタビの別名は夏梅で、アイヌ語の「マタタムブ」からの命名説が有力とされている。マタは冬、タムブは亀の甲の意味で、果実を表わした呼び名とされている。実しやかに「疲れた旅人がマタタビの実を食べたら元気になり、また旅を続けられるようになった」といわれているが、このような薬効はないという。果実は2~2.5cmでラグビーボール状をしている。ネコ科の動物は強い反応を示すことから「猫に木天蓼」という諺が生まれた。鎮痛、冷え性、強壮、神経痛などの効用があるとされている。サルナシ別名コクワの語源は、サルが我を忘れて食べることからだという。マタタビと共にクマやサルなどの哺乳動物や野鳥が好んで食べる。コクワは緑色でキュイを無毛にしたような外見で2~3cmの大きさである。味はキュイに似ている。ビタミンCの含有量が多くレモンの10倍だという。他のビタミン類をも豊富に含み、抗酸化作用、ガン予防、免疫力アップ、滋養強壮、疲労回復に効く国産のスーパーフルーツである。春から初夏にかけて、若芽を摘んで天ぷら、茹でて水にとって冷ましておひたし、和えもの、油炒めなどにして食している。また、国道112号に「道の駅にしかわ」でコクワジュースが売られている。宣伝文言は爽やかな酸味と果物本来の甘みに加えて独特な香り云々とあるが、想像以上の酸っぱさである。将に「良薬口に苦し」で、飲む前に個人の好みによるひと工夫が必要である。

バナナ

バナナ栽培地域は熱帯から亜熱帯にかけて、赤道を挟んで南北緯度 30 度以内がバナナベルトと呼ばれている。トロピカルフルーツの代表的なバナナは主食、デザート、葉は皿、蒸し焼きの覆い、更には屋根の材料など多方面で利用されている。原産地は東南アジアのマレー半島やフィリピン辺りで、栽培の始まりはパプアニューギニアとされている。種類は世界で 300 あるいは 1,000 種ほどと言われているが、多くは東南アジアに自生しているものだという。主産地は東南アジアと南アジア、アフリカ、中南米で、それぞれ 1/3 ずつ生産している。生産の多いインド、中国、インドネシア、ブラジルやアフリカではほとんど国内で消費される。日本でバナナというとフィリピンや台湾からの輸入を思い浮かべるが、世界で最も多く輸出しているのはエクアドル、続いてコスタリカ、グアテマラなど中米の国々である。輸入の多い国はアメリカを筆頭にヨーロッパの国々と日本である。世界生産の 3/4 は主食、デザートで、1/4 は調理用とされている。

日本人との出会いは 1569 年、ポルトガルの宣教師が織田信長に献上したのが始まりとされている。1903 年（明 36）、台湾から神戸に輸入が始まった。1925 年（大 14）輸入拡大されたが、庶民には高根の花であった。船による輸送途中に熟したバナナをいち早く換金するために始まったのが「バナナの叩き売り」だという。1963 年（昭 38）の自由化で、フィリピンやエクアドルからの輸入が増え、国内で最も食べられる果物になった。これとは別に沖縄で栽培されている「島バナナ」、別名小笠原バナナがある。フィリピンから小笠原を経由して沖縄に入ってきて定着したものである。見慣れたものより小振りで、ずんぐりしている。食べるとねっちりしており食べ応えがある。

バナナの思い出は、エクアドルで売られているバナナは 1 本 2 円ほどと安かった。運搬用の木箱の方がバナナ本体より高くとつくと農民が嘆いていた。キューバで食べた日本の赤飯そっくりのCongri にバナナのフライが付いてきた。薄く輪切りしたものを潰して二度揚げしたトストーネスで、その甘さが薄塩味の Congri を引き立てていた。また、カンボジアではバナナの花の蕾を炒めて食べていた。紫色で小型のラグビーボール状のものからタケノコのように 3~4 枚皮をむと芯が現れる。これを水に晒してアクを抜いてから調理した。エチオピア南部の少数民族ドルゼ族の主食は、実のならない偽バナナだった。多年草で年中いつでも利用できることから主食となったのだろう。偽バナナの巨大な葉の根本を削いで繊維と葉肉分け、繊維の方は織物に、葉肉に含まれている多量の澱粉が食糧だった。澱粉を偽バナナの葉で包み 2~3 週間土中に埋めて発酵させてから焼いて食べていた。チーズの香りと共に酸っぱい味でコチョコ、ピザ生地と呼んでいた。地域の人々にとっては貴重な食料で、偽バナナを「飢餓を救う木」とも呼んでいた。バナナは比較的low価格で、皮を手で剥くだけで食べられ、クリーミーな食感で人気である。しかし、供給側の熱帯の発展途上国のプランテーションでは厳しい労働条件の下で働き、農薬による健康被害も出ていると記されていた。

トウモロコシ

トウモロコシの原産地はラテンアメリカである。先住民インディヘナの人々が日々の糧にしていた。コロンブスがキューバで出会って、15世紀末にヨーロッパに持ち込まれた。その後、30年間にフランス、イタリア、トルコ、北アフリカなど各地に伝わった。西アフリカに16世紀に奴隷を南アメリカに送るための食料として持ち込まれ、17世紀には陸路で南アフリカにまで及んだ。日本には16世紀中頃、東南アジアからポルトガル人によって長崎に伝えられた。そして、1868年に改めてアメリカから北海道にもたらされた。なお、トウモロコシのトウは中国王朝名の唐、モロコシは唐土から伝来した植物のモロコシに由来している。なお、日本に伝わった時、最も似た植物がキビであったのでトウキビと呼ぶようになった。

トウモロコシの種類は、甘味種（スイートコーン）、硬類種（フリントコーン）、爆裂種（ポップコーン）、馬歯種（デントコーン）とあるが、茹でたり焼いたりして食べるのは甘味種の未熟なもので、枝豆同様野菜に分類されている。トウモロコシはコムギ、イネに次ぐ三大穀物の一つで、生産量はアメリカが36%、中国、ブラジルと続く。用途は家畜用64%、コンスターチなど工業用32%、直接食用は4%（2007年）と極端に少ない。

今日、トウモロコシを常食としている地域はラテンアメリカとアフリカ東部から南部にかけての地域である。原産地のラテンアメリカでは黄色、赤、黒など多種多様なトウモロコシが見られる。生と乾燥させたものを、様々な調理方法で食べている。粉にして揚げたり焼いたり蒸したりしたパン、スープ、ポップコーン、さらには発酵させたチチャという飲み物と様々である。最も一般的な食べ方は、黄色のトウモロコシの粉でつくるトルティーヤ、一種のクレープである。これに具材を包んで、豆のスープで食べる。パラグアイで良く食べたチパグアズは、家畜の餌用に栽培されているデントコーンに近いコーンを粉にして、タマネギやチーズやバターを混ぜ合わせて焼いたもので、トウモロコシの風味が強いトウモロコシケーキのようなものであった。一方のアフリカでは、19世紀中頃、収穫量が多い白トウモロコシが低賃金肉体労働者用、奴隷用に栽培され普及した。今日でも白トウモロコシが一般的であった。食べ方は白トウモロコシの粉、ウガリに熱湯を注ぎ、耳たぶほどの柔らかさになるまでへらでこねる。これを牛、羊あるいは鶏のぶつ切り肉とタマネギやニンジンなどの野菜を煮込んだシチューで食べる。時にはトマト味に変化するが、味付けの基本は塩で、ニンニクと唐辛子が適度に加えられていた。ウガリは地域によってサザ、パップ、シマと呼び方が異なるが同じものである。また、ルーマニアの主食は小麦とトウモロコシであった。小麦はパンに加工されるが、トウモロコシは粉にして粥のように煮てから牛乳とバターを加えたママリガにして食していた。見た目は黄色味の強いマッシュポテトに似ており抵抗なく食べられた。

近年、最大の生産国アメリカでバイオマスエタノールの需要が急増し、トウモロコシの需要が拡大した。生産が追いつかず食料にしている地域と競合し価格の急騰を招き大きな社会問題となった。

小麦と大麦

小麦は米と共に代表的な主食である。米はアジアのモンスーン地域中心の作物だが、小麦はアフリカ大陸ナイル川流域のエジプトで1万年も前から小麦が栽培されており、南極大陸を除く各大陸で栽培されている。麦の歴史を見ると、大麦が小麦よりも早くから栽培されており、収穫量の多さや収穫までの期間の短さなどから大麦が重要作物であった。小麦に比べて殻が剥がれやすく米と共に主食の地位にあった。当時は粒食で、お粥にして食べていた。更に味噌や醤油に使用されるなど大きな存在で「主たる麦」であった。

粒の大きさや穂の背丈はほぼ同じであるが、何故か「大きい麦」、「小さい麦」と書く。一説によると、幼植物の葉が小麦より大麦の方が大きいことからの呼名と言われているが、その一方で、麦の大小は、ビッグ (big) やラージ (large) ではなく、大はメジャー (major) の意味で、主な、本物、用途の広い、一流などを意味している。一方、小は、代用品や品質が劣るなどの意味をもつ傾向にある。従って、大麦、小麦の呼び名は、かつて大麦が主役であった頃の名残とする説が有力である。近世以降、小麦粉の発明、小麦の硬い皮、外皮に覆われた小麦の粒の内部、胚乳から小麦粉を取り出す製粉技術が確立してから小麦の用途が急拡大して、大麦と小麦の地位が逆転したが、名称だけがそのまま残ったとされている。大豆、小豆の場合も同じで、粒の大小が語源ではなく、用途の広さや栄養価の高いのが大きい豆となり、ランクが低い方を小さい豆となった。その一方で、赤くて煮崩れする小さな豆の当て字説もあるが。

小麦の原産地はカスピ海南岸付近で、ここから全世界に広まった。西方のヨーロッパではフランスのバケットやクロワッサン、イタリアのグリッシーニ、ドイツのライ麦パンなどの「パン文化」が生まれた。パン文化の中で島のように麺文化が発達したのがイタリアのパスタ文化である。東方に伝わった小麦は、カイバーク経路でインドに入り、中国に広まった。中東やインドではナンやチャパターなどの薄いパン、中国では蒸しパンや麺類、饅頭、包子、餃子、餅などの文化が生まれた。世界の小麦生産量 (2021年) は、中国とEUがそれぞれ17%、インド、ロシア、USと続く。今日の小麦、大麦の世界生産量を見ると、小麦が6億トンで、大麦は1/4の1.5億トンである。日本の小麦自給率は13%で、大半をアメリカ49.8%、カナダ33.4%、オーストラリア6.8%の3カ国から輸入している。なお、日本の用途を見ると麺用32%、パン用27%、菓子類5%、味噌や焼酎などのその他が36%である。なお、日本で小麦の利用拡大が進んだのは江戸時代に普及した石臼以降、300年程昔からである。

麦類には、大麦、小麦、ライ麦、エン(オート)麦とあるが、英語ではwheat、barley、rye、oatと明確に区別している。このうち食料として利用しているのは小麦、ビール、味噌、醤油、麦茶などの大麦(含:ハダカ麦)、外は主に飼料として利用されている。一昔前、大麦の入った麦飯は白米を十分に食べられない貧しいイメージがあったが、栄養豊富な健康食として注目されている。

茶

食後の一杯の茶は何とも言えない幸せ感に満たされる。茶とコーヒーは世界で最も愛されている飲み物である。茶の原産地は中国、雲南省近辺とされている。ここから2つのルートで世界各地に広まった。1つは陸ルートで、シルクロードを通過してインド、ペルシャ（イラン）、アラビア、トルコへ、他にモンゴル、チベット、ロシアに広まった。この地域ではチャ（チャイ、ツァイ）の名称で呼ばれている。もう一つは海ルートで、東南アジアからヨーロッパへ。イギリス、フランス、イタリア、オランダ、デンマーク、フィンランド、その後、イギリスからスリランカ、アメリカへと広がった。こちらはティ（テ）の名称である。茶は世界で2つの言葉、チャ（Cya）とティ（Te）だけである。主な生産国は、中国43%、インド23%、ケニア8%、スリランカ6%で、4カ国で80%を占めている。消費量の多い国はインド、中国、ロシア、イギリス、日本だが、1人当たりの消費量はアイルランド、イギリス、その後はイスラム圏の国々、モロッコ、クウェート、トルコ、カタールなどの国々が続く。

茶の種類は、生茶葉を乾燥、発酵させて茶をつくる際、発酵の有無あるいは度合いによって緑茶、ウーロン茶、紅茶に分けられるが、原料は同じ茶葉である。茶の75%ほどが完全発酵の紅茶、無発酵の緑茶が20%程度、紅茶と緑茶の中間、半発酵のウーロン茶9%程度で台湾と中国福建省を中心に中国文化圏で愛飲されている。紅茶は別名イングリッシュティー、緑茶は別名日本茶、ウーロン茶は中国茶とも呼ばれている。なお、無発酵の緑茶は日本、中国はじめ東南アジア各地と北アフリカのモロッコで飲まれている。

茶の大まかな歴史を見ると、中国で紀元前2800年頃に解毒剤、薬として飲用されていた記録が見られる。日本には7~8世紀の奈良、平安時代に遣唐使や留学僧、永忠、最澄な空海等によって持ち込まれた。15~16世紀千利休等によって茶の湯が完成し豪商や武士の間に浸透した。江戸時代には幕府の儀礼として採用され武士社会には欠かせないものとなった。その一方で、煎じて飲む茶が庶民の間にも広まった。近年の和食ブーム、健康志向を反映し日本茶、緑茶が世界的ブームとなり、2022年の緑茶輸出量が6,266t、219億円となっている。輸入先はアメリカを筆頭に台湾、EU及びイギリスなどである。近年、世界最大のチェーンであるスターバックスがアメリカで煎茶と玉露を販売し始め、徐々に消費量が伸びているという。

日本での茶の栽培は、秋田から沖縄まで広く栽培されているが、三大産地は生産量の40%を占める静岡をトップに鹿児島、三重と続き、全体の87%を占める。ところが、三大銘茶となると静岡茶、京都の宇治茶、埼玉の狭山茶だという。日本で飲用されている茶は、緑茶の抹茶、煎茶、玉露、焙じ茶、番茶で、他に茶葉を使わない麦茶と昆布茶がある。茶は淹れ方によって風味や味が変わるので毎日飲んでも飽きがこない。ペットボトルやティーバッグなど手軽な茶のみに走ることなく茶本来の味、香りを楽しみたいものである。

2. 餃子とカレー (P.15~P.24)

ページをクリックするとそのページに移動します

○ 餃子の旅路：P.16

○ だんご文化：P.17

○ 讃岐うどん：P.18

○ チョコレートとヨーロッパ：P.19

○ インデアンカレー：P.20

○ 沙漠の飲みものと砂嵐：P.22

○ 魚食民族：P.23

○ 外国で日本食ブーム：P.24

餃子の旅路

広い中国では、地域により自然環境が大きく異なるため広く適地適作が行われている。地域により食材も調理法も異なることから、中国料理には「北鹹（ホカ）、東酸（トウ）、西辣（セリ）、南淡（ナツ）」という言葉がある。北京や山東（シャツ）など北方料理は濃い目味付け、上海、浙江（フョー）など東方の料理は酸っぱく、西方の四川（スチョウ）料理は辛く、南の広東（ワフョウ）料理は調和のとれたまろやかさを特徴としているという。

北京・山東料理圏は、稲作栽培の年間降水量 1,000 mm を大きく下回る。従って、米ではなく小麦栽培地域である。中心地の華北平原南部に徐州（シュイョウ）がある。「徐州 徐州と人馬は進む・・・」の軍歌「麦と兵隊」の歌詞に“行けど進めど 麦また麦の 波の深さよ 夜の寒さ”と広大な麦畑が詠われている。ここは年間降水量が 600～800 mm、世界最大の小麦生産地で、世界の 15% を生産する。当然、小麦が主食で、麺条（ミンティア）をはじめ餃子、饅頭（マツリ）、包子（パコ）・肉まん）、餅（ピョ）・山形のどんどん焼き）などに調理して食べている。

餃子は小麦粉を原料とした皮で、肉やエビ、野菜などでつくった餡を包み、茹でる、焼く、蒸す、揚げるなどの方法で調理した食べ物である。餃子の歴史は古く春秋時代の紀元前 6 世紀頃まで遡り、華北平原の山東省が始まりとされている。主食の餃子は皮が厚く、全体的に淡泊な味の茹で（水）餃子である。日本では当たり前のニンニクが具に入ることはほとんどなく、皮を作るときスープを用いることもあると聞いた。

日本へは江戸時代前半に入ってきたとされているが、本格的な出会いは、餃子の故郷である山東省の人たちが開拓のため旧満州、現在の東北地区に入植したことに始まる。日本からも多くの農民が開拓のために入植し、宇都宮の旧日本軍 14 師団が駐屯した。その結果、多くの日本人が本場の餃子の味を旧満州で知ることになる。戦後、彼らが日本に引き揚げ、宇都宮を中心に餃子文化が急速に普及した。餃子は故郷の山東省から満州、今の東北地区へ、そして米を主食としている朝鮮半島を経て日本へと旅をした。この長い旅路の間に主食の座を降り、水餃子から焼き餃子に、厚い餃子の皮から薄い皮に、東北地区は気候的に豚の飼育が難しく羊肉が主流であったので、豚肉から羊肉へ、そして再度豚肉へ、羊肉の臭いを和らげるために満州で使用していたニンはそのまま残った。宇都宮餃子と共に浜松餃子が知られている。こちら戦後中国からの引揚者が、中国で覚えた餃子を駅前の屋台で商売したのが始まりだという。餡の材料は双方とも豚ひき肉を使用しているが、それぞれの県の農業を反映して野菜に違いが見られるという。宇都宮は白菜が中心で特産のニラが加わり、浜松はギャベツとタマネギを使用するので肉の味と野菜の甘さが感じ取れるという。韓国、ソウルの仁寺洞と中国、四川省の成都で焼き餃子を食べる機会があった。日本のものとほとんど同じで、食べ方も同じだった。チベットやネパールで食べた「モモ」、通称チベット餃子は、皮が厚い水餃子あるいは蒸し餃子で、ヤク肉であったが、オリジナル餃子に近い印象を受けた。

だんご文化

日本人は春の「花見」、サクラを待ちわびる。花見には花見だんごが付きものである。そして、日本人なら誰でも「花よりだんご」のことわざを知っている。だんごの起源は、諸説あるようだが中国から米が伝来し、うるち米を蒸して食べる習慣が定着したのは弥生時代と言われている。室町時代になると、団子の文字が見られるようになり、竹串に通したものが出回るようになったという。元々は焼き団子や団子汁として主食の代用品として食べていたようである。材料も粒食できない碎米や屑米などを製粉したもので作っていた。その後、日本で独自に進化を遂げて馴染み深い和菓子の一種となった。今日では「だんご」という呼び名が全国で定着しているが、東北など一部では「だんす」、新潟の一部では「あんぶ」、滋賀や四国の一部では「おまる」などの呼称が見られる。

桜の季節に作られる花見だんごは、三色でピンク（赤）、白、緑の順になっている。それぞれの色は桜のつぼみ、花、葉を表わしていると言われるが、他にも、ピンクは花で春を、白は雪で去り行く冬を、緑は新緑の夏を表わしていると言われている。秋がないのは何度食べても飽きない（秋ない）と、商い（秋ない）繁盛を意味している言葉遊びだという。

「春夏冬二升五合」 何と読む？ （春夏冬=秋ない）（二升=升二つで升升）（五合=半升）

昔、だんごを人形に見立て厄除けの身代わりにしていたことから一串の数は頭、両手、両足の 5 個であった。これが江戸時代に 4 文銭が出現し、ワンコインで買える 4 個になったという。また、全国調査によると、1 串のだんご数は 2 個から 5 個までであるが、4 個が最も多かったという。だんごに似たものに餅がある。その違いは、だんごは粉から作るが、餅は粒を蒸してから作る。餅は祝儀に用い、だんごは仏事に用いるなど様々言われているが、厳密な区別は難しいようである。山形の団子屋さんで食べただんごは明らかに餅を竹串に刺しているものであったが、それなりに美味しかった。

山形の店には季節を問わず醤油、胡麻、ずんだ、クルミ、小豆のあんこなど色とりどりのだんごが並ぶ。長く住んでいた鶴岡のだんごといくつかの違いに気付いた。鶴岡では黒蜜の上に黄な粉をまぶした黄な粉だんごが人気ナンバーワンであるが、山形ではあまり見かけない。1 串 2 個の草（ヨモギ）だんごと栃の実だんごがある。「殿はんだんご」の名前で一回り大きなだんご、花見シーズン限定で店開きする農家のだんご屋があり、鶴岡には独自のだんご文化が感じられる。

花見は春の到来を喜ぶ日本の伝統行事である。人々は桜の花の下に集い食べて、飲んで楽しむ。桜を楽しむよりも宴会を楽しむ人も多い。このような人たちを「花よりだんご」と呼んでいる。これをそのまま英語にすると、“Dumplings better than flowers” となるが、同じ内容の諺は、“Better have meat than fine clothes”、“Bread is better than the songs of birds” などなどである。他にも、「団子に目鼻」（顔が丸い）、「だんごレース」（五十歩百歩）、「だんごの串刺し」（複数の例えを連ねる、良くない見本）などなどがある。

讃岐うどん

昔、今日の四国に讃岐（香川県）、伊予（愛媛県）、土佐（高知県）、阿波（徳島県）の4カ国があったことから「四国」と名付けられた。

四国地方の中央に石鎚山や剣山をはじめ 1,800m 以上の山々から成る荒々しく雄大な稜線が特徴の四国山地が東西に横たわっている。中国地方には大山と氷ノ山を除くと高い山でも 1,300m 以下でなだらかな稜線が特徴の中国山地が東西に走っている。その間の瀬戸内海に面した地域は典型的な瀬戸内式気候で、夏の季節風は四国山地で、冬の季節風は中国山地で遮られる。このため年間を通して天気や湿度が安定している。特に 8 月の盛夏の降水量が著しく少ない。

瀬戸内海に面した地域の年間降水は、地域差があり、どこも少雨と言う訳ではない。岡山県の南部や香川県は梅雨期の降水量も少なく年間 1,000mm 台前半で国内最小である。更に讃岐平野は、讃岐山脈から流れてる河川は急勾配のうえ、距離が短く水量の少ないものが多い。そのため河川水利用は不安定で、常に水不足に悩まされてきた。水不足解消のため農業用水をためるため池が県内各地に造られた。その数は今日でも 14,600 カ所にも及び、農業用に使われる水の 52%をため池に頼っている。

アメリカと並んで中国は広大な国土で気候などの地域差が大きいことから「適地適作」で知られている。なかでも有名なのが稲作と畑作の境界が年間降水量 1,000mm の線で、チンリン山脈・ハワイ川線と言われている。これに当てはめると、香川県では米作りよりも小麦などの畑作に向いている。栽培されていた作物は小麦や大豆などでうどんやそうめんと結びついてきた。うどんづくりに欠かせないものが小麦と共に塩と醤油である。年間を通して少雨などの気候風土を生かして坂出で塩田開発が進められ、塩が江戸時代に讃岐の特産品となった。塩と大豆と小麦に恵まれ、温暖な気候は醤油の醸造に適しているという。これらを背景に小豆島はじめ坂出や高松など製造された醤油は全国トップクラスの生産量だという。もう一つがだしを取るいりこも欠かせないものである。カタクチイワシを茹でて干したものがいりこで、主な漁場が香川と愛媛の間の燧灘（ヒツガ）で、濃厚で旨味が強いと言われている。

うどんは米飯とおなじ主食として、あるいは祝い事の後に振舞われる「ハレ」の食べ物として、日本全国で食べられてきた。麺類の故郷は中国で、奈良時代に遣唐使によって日本に持ち込まれたとされているが、今日のようなうどんになったのは平安時代とされている。麺類のそうめん、冷や麦、うどんの原料は同じで、太さによって区別されている。最も細いのがそうめん径 1.3 mm 未満、最も太いのがうどん径 1.7 mm 以上である。うどんに限らず「〇×三大産地」なるものが真しやかに言われているが、早いもの勝ち的なものではっきりした規定などは何もなく遊びの一種である。うどんにも三大、五大、七大など騒がれることがある。香川県の讃岐うどん、秋田県の稲庭うどん、宮城県の白石うどん、群馬県の水沢うどん、愛知県のきしめんなどなどが名を連ねている。

チョコレートとヨーロッパ

チョコレートの原料はカカオで、栄養価が高い健康食品として知られている。原産地はメキシコのユカタン半島、ブラジルのアマゾン川やベネズエラのオリノコ川流域の熱帯雨林とされている。カカオの学名は、ギリシャ語で「神の食べもの」を意味するという。カカオの歴史は古く、紀元前後のマヤ文明まで遡る。後のアステカ王国では、カカオ豆を乾燥させ、炒って殻を除いたものをすりつぶしたショコラに水を加えて王の飲みものとしていた。また、「カカオは神秘的な力を持つ」として儀式の献上品、薬、貢物、交易品、通貨として、あるいは細かく砕いて作られる飲みものは上流社会の結婚式や疲労回復に用いていた。

ヨーロッパ人で最初にカカオと出会ったのはコロンブスとされているが、彼はインドの香辛料への関心が高くカカオには興味を示さなかったという。ヨーロッパに初めて持ち帰ったのは、先住民に変わってこの地を支配したスペイン人であった。16世紀にショコラがヨーロッパに伝わり、バニラと砂糖を加えて甘い飲みものとなった。17世紀にオランダでココアパウダーがつくられ、ココア飲料がヨーロッパで急速に広まった。18世紀後半の産業革命の頃にチョコレートは飲み物から食べるものに変化した。19世紀中頃にイギリスの菓子職人によって食べる固形チョコレートがつくられ、1876年にスイスで今日のチョコレートの基本形ともいえるミルクチョコレートが出現した。言い換えれば、チョコレートはヨーロッパ人総力の結晶と言える。

原料であるカカオは高温多湿の熱帯で、北緯 20 度から南緯 20 度のカカオベルトだが、高度が 30 から 300m、年間平均気温が約 27℃で、気温差が少ないところ、年間降水量が最低でも 1,000 mm以上とかなり限定された地域である。チョコレートが作られ始めた頃の原料は全てラテンアメリカ産であったので、スペイン人とフランス人によって西インド諸島、イギリス人によってギニア湾岸での栽培が始められた。これが発展して今日ではアフリカが主産地になっている。今日のカカオ生産は中米、南米北部、西アフリカ、東アフリカ、南アジア、東南アジア、オセアニアの約 50 カ国で生産している。

カカオの生産量（2021年）は、コートジボアール（39.4%）、ガーナ（14.7%）、インドネシア（13.0%）、ブラジルの順で、西アフリカが70%を占める。カカオの実は、高さ6ないし7mのカカオの樹にぶら下がるラグビーボール状に実る。実はカカオポットと呼ばれ、その中に種子のカカオ豆が30~40粒入っている。これらを取り出しバナナの葉などで覆い発酵させた後に乾燥してから加工国へと送られる。ここまでの作業は、高温多湿の条件下で現地の貧困層の労働力に頼っている。

チョコレートの年間生産量の多い国はドイツ、イタリア、イギリス、日本、ポーランド、ベルギー、フランス、スイスとヨーロッパが上位を占めている。なお、チョコレートの生産国は、酪農の盛んな国とほぼ一致している。

インディアン カレー

カレーと言えばインドを思い浮かべる。確かに、カレー料理の発祥の地はインドである。インドのカレーは「香辛料やハーブを使った汁状の料理の総称」であり、日本のとろみのあるカレーとは似ても似つかぬものである。また、日本で普段使っているカレールーは勿論のことカレーパウダーもインドには存在しない。インドのカレーが宗主国イギリスに伝わった時点で、かなりの人気料理だった。辛み、味と香り、色を考慮し、カイエンペッパー、クミン、カルダモン、シナモン、クローブ、ターメリック、サフランなどさまざまな香辛料を混合しカレーパウダーがイギリスのクロス・アンド・ブラックウェル社から C&B ブランド名で発売され、明治初頭の文明開化の頃に日本に伝わってきた。余談だが、後に日本で S&B ブランド名のエスピー食品からカレー粉が発売されたがパクリ、コピー商品と揶揄された経緯がある。カレー料理の元になっているスパイスの歴史をたどってみると、スペインやポルトガルなどヨーロッパ人が命がけの航海で探し求めたものである。時にはゴールドと同じ値段で取引されたともいわれている。また、カレーに使われているスパイスは、漢方薬としても知られており、食欲低下や肝機能低下を防ぎ、自律神経の働きを高めるなどの健康効果が期待できるという。したがってカレーはロマンに満ちた、高価で、究極の健康食といえる。今から 50 年程前になったが、パンジャブ・ヒマラヤに入る前、日本から送った荷物を受け取り、戦後初めて外国人に開放された地域だったので、ポーターの雇用、食料調達のための現地用語で書かれた地域長へ紹介状が必要だったことからインド人のヘム シン氏を通訳として雇用した。彼によるとインド料理の美味番付は、上流家庭のインド料理を筆頭に、中流家庭のインド料理、中流レストランと続き、最後は一流レストランだという。一流レストランの味はヨーロッパ的で値段だけが高く駄目だという。インドやネパールの一膳飯屋で最も人気があるが大皿料理を意味するターリー、ネパールではダルバートで、日本のラーメンに匹敵する国民食である。ダルと呼ばれる豆スープ、おかずは複数のカレー料理のタルカリと漬物のアチャールなどが、カトリという小皿によそわれる。金属の大皿の中心に飯またはナンやプーリーなどの薄い揚げパンや焼きパンなどがよそわれ、その周囲に小皿のスープやおかずが載せられる。これらがセットになって運ばれてくるインド版定食である。インド南部ではミールズと呼ばれており、一段と辛みの増したカレーになっていた。インド北部の旅で一膳飯屋に入るなり、ドライバーは即注文していたし、居合わせた客も申し合わせたように同じものだった。食べ方の基本は右手だけで食事をする。カレー味のタルカリをスプーンで飯の上に向け、右手でさっとこねて小さなボール状にして親指で口に押し入れる。店の奥には、手食での食事を終えて手洗い用の蛇口が 3~4か所並んでいた。

最後に、日本にカレーを伝えたイギリスにはカレー文化が根付いている。とろみのあるカレーが一般的で、使用される肉はほとんどが鶏肉で、インドのように豆類や野菜を使ったカレーが好まれるという。

【資料：カレーのお国柄】

・インドのカレー

カレー発祥の地、インドのカレーは「スパイスを使った汁状の食べもの」をいう。また、我々が認識しているようなカレー粉というものは存在せず、ガラムマサラ、クローブ、シナモンといったスパイスを使いカレーを作っている。また、日本で主に食べられているとろみのあるカレーはなく、水気の多いカレーが主流、お米だけでなく、ナンと呼ばれる薄いパンにつけて食べるのも特徴。

・タイのカレー

タイではカレーのことを「ゲーン」と呼び、熱帯の気候の中、食をすすめる料理として一般的に食べられている。インドよりは数段辛く、酸味と甘味を持っているのが特徴。また、他国のカレーと違い、ナムプラーという調味料やココナッツミルク、タケノコなど多くの具や調味料を用いて、具たくさんのカレーが一般的。

・スリランカのカレー

インドの南に位置するスリランカも、カレー文化の発達した国。スリランカのカレーの特徴は日本の鰹節のような「モルシブフィッシュ」が使われている点にある。また、アーユルヴェーダの影響か味、見た目、香りまでも他国のカレーに比べて特徴的。

・イギリスのカレー

日本にカレーを伝えた国だけあって、イギリスもカレー文化が根付いている。インド式の水気のあるカレーではなく、小麦粉でとろみをつけたカレーが一般的。日本のように牛肉や魚介類を使ったカレーはあまりなく、ほとんどが鳥肉を使っている。また、インドのように豆類や野菜を使ったカレーが好まれている。

【資料：日本で究極のカレーが誕生】

新宿中村屋の創業者、相馬愛蔵は、インド独立運動でイギリス政府から迫害を受け、日本に亡命してきたラス・ビハリ・ポーズをかくまった。後に、愛蔵の長女と結婚したが、29歳で亡くなってしまふ。ポーズは悲嘆にくれて、インドを懐かしむようになる。そんな折、中村屋に喫茶創設の話が持ち上がった。当時の日本のカレーは本家本元のインドのものとは似ても似つかぬものであった。ポーズは、純インドカレーを日本に紹介したいとはじめたのが中村屋のカレーといわれている。

純インドカレーを作るために究極の素材を用いたことも知られている。米は江戸時代に大名が食べていた白目米を埼玉の農家から取り寄せ、肉は自営農場で飼育したシャモ、バターも卵も自営農場で生産した。普通のカレーが10銭だった当時80銭と高額だったが、1日200食も売れる人気商品になったという。（「中村屋ポーズと相馬俊子の恋と革命の味…」を参考）

沙漠の飲みものと砂嵐

年間を通してほとんど晴の沙漠でも毎日天気予報がでる。日本のように晴、曇、雨が中心ではなく、気温、風と砂嵐が中心である。沙漠の湿度はかなり低いように思えるが20~25%と結構高い。東京の冬の平均湿度は約20%で、最低は10%近くになることもあるというから文字通り「東京沙漠」となる。

アフリカ北西部、モロッコでアトラス山脈を越えてサハラに入った。地球の背骨のような岩山を越え、オアシス集落のアウラザッテに着いた。人々はガラスのコップに砂糖を1/4位入れ、生のミントを岫ごと押し込み、その上から緑茶を注いだミントティーの上澄みをちびりちびりと飲みながら木蔭でのんびりと寛いでいた。

昼下がり風の吹き出しと共に路上から人影が一斉に消えた。突然、突風が吹き抜け、稲妻が光り、雷鳴が響いた。西方から黒雲が垂れ込め、筋となって雨が降っているのが見えた。サハラでの雨が珍しく、集落の端で岩陰に身を潜め、上着を頭からかぶり雨を待った。風の強まりと共に砂嵐が襲ってきた。風は渦巻状になって襲ってきた。被った上着は無効だった。隙間を通った砂埃で呼吸もままならなかった。そして、雨粒1つ落ちることなく雷鳴と共に砂嵐は去って行った。気温50度は、雨が地上に届く前に蒸発してしまう世界だった。直後に酷い喉の渴きに襲われた。頭髪は5本指の櫛も通らない程の砂埃を被っていた。もし、雨に会っていたら間違いなく全身泥んこの惨めな姿になっていたに違いなかった。沙漠の民が最も恐れているのは砂嵐である。その浸食力は凄まじく、岩はキノコ状に頭でっかちに、コンクリートの電柱の根本はビーバーに齧られたように細くなる。車のフロントガラスは曇りガラスのように濁ってしまう。沙漠の民の服装を見ると、一枚布で身体を広く覆っているのが一般的である。砂嵐をもたらす風は、北アフリカや中東ではハブーフ、イタリアではシロッコ、東アジアでは黄砂などと呼ばれている。

砂嵐の去った後のオアシスは、何事もなかったように路上に人々が戻り、熱いミントティーを飲みながら談笑に耽っていた。元々モロッコはミントだけで飲んでいたが、19世紀にイギリス商人が中国の緑茶を持ち込んだのが始まりだという。煮出しの茶の苦味にペパーミントの強力な香りに甘さが加わるので空腹時は要注意の飲み物であった。ところが、慣れてくると苦味と香りを溶かし込んだ甘みが、この上なく乾燥した気候にマッチした飲みものであった。

沙漠の民は良く熱いお茶を飲む。熱い茶を飲むと当然体温が上がり汗をかく。汗が蒸発することで身体の表面の温度が下がり、結果としてお腹を冷やすことなく体が冷える。アラブ国々にはどこに行ってもマクハー、茶房がある。店内はもちろん道路にはみ出してテーブルと椅子が並んでいる。熱い茶はシャーイといい、これを注文すると、茶と共にコップ一杯の水が添えられ運ばれてくる。先に水を飲み、それからゆっくりと時間をかけてお茶を楽しむ。トルコのチャイハネ、茶房も同じだったが、どこも男の社交場で、女性を見かけることは無い。

魚食民族

日本人が普段食べている魚は、リンゴ、牛肉と共に世界的に見ると非常に美味しい。日本人は世界のどの国よりも多くの魚を捕り、輸入し、食べてきた典型的な魚食民族である。日本の国土は南北に細長く、海岸線が長く、近くで暖流と寒流が交わるので、季節ごとにいろいろな魚が採れる。例えば、冬はタラ、アンコウ、サケ、ブリ。春はサクラマスやクチボソカレイ、カツオ、アジ。夏はスルメイカ、岩ガキ、キス、トビウオ。秋はハタハタ、サケ、甘エビ、サンマなど。季節によって魚が違うので年中魚を食べても飽きることはない。魚の種類が多いので、多くの魚料理法が生まれた。生で食べるサシミはマグロやハマチ、ウニなど、焼いて美味しいサンマ、サケ、ホッケやアユ、煮魚ではカレイ、金目ダイ、ブリやサワラ、茹でるのはハタハタ、揚げるものの代表はアジやワカサギ、干すのはサンマ、ノドグロやホッケなどなど。海外ではバター焼きか揚げものが一般的である。ペルーで食べたウナギは2 cmほどのぶつ切りを油で炒めたものだった。この時は日本の蒲焼のおいしさを思い出した。

肉食で知られるモンゴル人の高校生が自宅にホームステイしていた。季節によって食べる肉に変化があるのかと尋ねたら、冬（晩秋～春）は赤い食べ物、肉料理で、夏（初夏～秋）は白い食べ物、乳製品の傾向があるという。年間を通して最も食するのが羊だが、馬は冬に食べる回数が増えるかな?!だった。外国旅行中に魚を食べたくなる時がある。外国で食べる魚は、匂いが強くがっかりすることが多い。鮮度が全く違うのである。韓国のスオン（水原）で食べた刺身、エクアドルのクエンカで食べた海鮮スープでお腹を壊した苦い経験がある。そんな中で思い出に残る美味かった魚は、トルコ、イスタンブールのガラタ橋近くの小舟で揚げるアジのフライ、モロッコのオアシスで食べた川魚のフライ、ポルトガルのポルトで食べたイワシの塩焼き、ポルトガルのナザレで食べた干シタラのコロケ、ペルーのチチカカ湖のマスのフライ、フィンランドヘルシンキ市場の鮭のマリネなどが思い浮かぶ。

山形県の山形を中心とする内陸は太平洋魚圏で、庄内は日本海魚圏ということで魚の種類も違うし、料理法の違いも見られる。例えば、庄内を代表する秋から冬の魚であるハタハタの湯上げがある。頭でっかちでグロテスクにも見えるが美味この上ない。鍋で茹で、醤油をかけて食べるシンプルな料理だが庄内の定番料理である。また、12月9日に行われる伝統行事「大黒様のお歳夜」では、卵たっぷりのハタハタの味噌田楽を食べる風習がある。お歳夜とは大黒様が妻を迎える夜とされ豆腐の田楽、黒豆なます、納豆汁などのご馳走とまっか大根、二股大根を添えて豊作と子孫繁栄を祝う伝統行事である。畑作物の代表である豆と大根を供えることで大黒様を農業神として敬う行事である。大寒に食べるドンガラ汁、鱈汁も格別である。厳寒の荒波にもまれた真鱈をぶつ切りにし、アラを中心にアブラワタ（肝臓）、白子、少量の切り身を味噌仕立てで丸ごと鍋にして味わう料理である。

外国で日本食ブーム

日本は世界でも長寿の国で知られている。この長寿を支えている要因の一つが食事である。日本の国土は南北に細長く海、平野、山の自然に恵まれ、多様な食材が手に入る。それで蒸す、茹でる、煮る、焼く、揚げる、炒めるなど様々な調理法を生み出してきた。

日本食（和食）はフランス料理や中華料理と違い、食材本来の持ち味を生かした料理である。そのため、食材は新鮮で旬のものでなければならない。新鮮で旬の食材は、近隣でしか手にはいらないため、農産物の直売がブームの一因となっている。古くから食材の調達は「四方三里」、「四方八里」と言われてきた。庄内平野の大きさを「四方三里」と比較すると、面白い結果が得られる。庄内平野は南北約 50km、東西は南部で約 16km、北部が約 6km、平均すると 11km で、面積は 550 km²である。「四方の三里」の面積は、1 里約 4km で 576 km²で、ほぼ同じである。庄内平野は理想的な広さで、食材に関してはユートピアと言える。

私たち人間は長い進化を経て今日の歯並びになった。歯は 3つのタイプがあり、穀物用の臼歯が 20 本、肉と魚用の犬歯が 4 本、野菜と果物用の前（門）歯が 8 本で、その割合は 5 : 1 : 2 の比率である。言葉を換えれば、人間はカロリーの 60%を穀物から、15%を肉や魚から、25%を野菜や果物から摂るのが理想的だと歯は示している。日本食の主役はご飯である。旬の食材を使った「一汁三菜」で食べるのが基本である。これが理想的な栄養バランスで肥満防止に役立ち、長寿に結びついているといわれている。なお、欠点は、塩分の取り過ぎとカルシウム摂取不足が指摘されている。

欧米初め、中国や南米でも長寿国日本の食が、ヘルシー、美しい、安全安心、高品質として高い評価を受けているという。具体的な料理としてラーメンを筆頭に焼き肉、すき焼き、鉄板焼きの肉料理、寿司、天ぷら、魚料理などから、近年ではから揚げ、カレー、豆腐、蕎麦、うどんと、日本人の普段の食事にまで及んでいるという。ところが、高度経済成長期から日本人の食生活は魚から肉に変わり、穀類の消費量が減少し従来の欧米型の食生活に近づいてきている。近年、日本人は穀類の消費量が減り、硬いものは敬遠されるようになった。それにもなって臼歯が小さくなり、数が減るなどの変化が見られる。結果として、顎が小さくなり、小顔になったが、手放しで喜んで良いものだろうか。日本の食糧で見落としとしてはならない大きな問題は、食料自給率の低さで先進国の中で最低水準となっている。その反面で食べ残しや廃棄問題などは早急にもっと真剣に取り組むべき問題と言える。

2013 年、「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録された。その理由として、新鮮な食材の持ち味の尊重、優れた栄養バランス、自然の美しさや季節を表現、年中行事との関わりなどが挙げられているが、箸を使った美しい所作も含まれている。箸はつまむ、切る、運ぶなど繊細な動作を全て出来るシンプルな道具で、世界に誇れる日本の食文化の一つである。

3. 日本の面積」と色とりどりの海（P.25～P.38）

ページをクリックするとそのページに移動します

- 地形図：P.26

- 日本の面積：P.27

- 山形県の地形：P.28

- 山の名称と地名：P.29

- 岬 考：P.30

- 日本だけの呼び方：P.31

- 番地の国と日本の無番地村：P.32

- 似て非なる国名：P.33

- 北極圏：P.34

- 沙漠：P.35

- 南極大陸：P.36

- オーロラ：P.37

- 色とりどりの海：P.38

地形図

地形図にはお国柄が現れる。モロッコのカサブランカで買い求めたアトラス山脈の最高峰ツブカル山（4,167m）の地形図は美しい色彩で日本のものを凌ぐものであった。韓国ソウルで求めた朝鮮半島休戦ライン近くで日本海側のソラク山（1,708m）の地形図は、日本の地形図にあまりにも似ており驚かされた。かつての宗主国を思い起こすと何となく納得である。また、アルプス第2の高峰モンテローザ（4,634m）から流れ出すグレン氷河をスキーで滑った時に手にしたスイスの地形図は、精密極まりない地形描写による立体感と色彩、更には青の等高線で氷河の動きまで表現されており、将に芸術作品ともいえるものであった。

山登りでお世話になっているのが1/2.5万、一昔前の1/5万の地形図である。地形図とは、真上から見た土地を、測量を基にして地図記号などで地形や土地利用などを縮めて表現した平面図で、中縮尺の地図である。地図の縮尺は、小縮尺地図と大縮尺地図、中間の中縮尺地図に分けられる。小縮尺は1/20万より小さい縮尺の地図、中縮尺は1/1万～1/10万程度の縮尺、大縮尺は1/5千より大きい縮尺の地図をいう。縮尺が大きい小さいは、分数としての値が大きい小さいかをいう。従って、大縮尺の地図ほど詳しい地図になる。

地形図の基本は位置と距離、海拔高度である。日本の位置の基準、測量原点は国土地理院関東地方測量部を通る経緯線である。更に、神奈川県相模原に設けられた基線、5209.969mから山頂など見晴らしの良い所に測点、三角点を設け、これらを結ぶ三角測量で距離を決めている。これに対して、海拔高度は東京湾の平均水準面を海拔0mとして、国会議事堂前庭に水準点の標石、1891年に設置した24.5000mを基準にしている。その後、1923年の関東大震災と2011年の東日本大震災の度に地殻変動があり、現在は24.3900mに変更されている。水準点は主要街道に沿って約2kmごとに設置されている。山頂などの三角点に比べて注目されることが少ないが、双方とも地形図作成には極めて重要なものである。

ところで、車を運転していると「山形まで〇×km」の道路標識を目にする。この距離の起点は県庁や市役所などの位置とされているが、近年は街外れに建て替えられていることが多い。この場合は市街地の中心交差点や鉄道駅などを基準にしている。山形市の道路は明治時代から七日町交差点からほんの少しちょっと西、かつての旅館後藤又兵衛に向かうと花崗岩の立派な石柱、山形市道路元標がある。南：江戸日本橋92里、北：弘前83里、東：仙台16里、西：鶴岡24里と記されている。他に県内では酒田市道路元標、米沢は万世大路元標がある。余談になるが、かつての旅館後藤又兵衛は、350年以上続いた山形随一の老舗旅館だった。日本史に名を残す著名人伊藤博文、勝海舟、原敬、森鷗外などが来泊している。旅館前の通りは城主の参勤交代時の主要街道だった羽州街道で、旧幕時代の本陣、脇本陣が立ち並び、旅籠町の地名が残るが 今日では旅籠、旅館は全て姿を消してしまった。

日本の面積

日本国民の多くは、日本は島国で、面積が小さい国というイメージを持っている。日本の近くには中国（日本の25.4倍）、ロシア（45.2）と言った大きな国、太平洋を挟んでアメリカ（26.0）やカナダ（26.4）、南にはオーストラリア（20.4）の国々が分布している。日本は当然小さな国に見えてしまう。

日本国政府が認めている国家は196カ国である。これらを大中小に三等分すると、それぞれ66カ国となる。日本の国土面積は約37万8000㎢で、世界で61番目の広さである。日本は末席ながらも「大」に入ってしまう。西ヨーロッパで日本より広い国は、フランス、スペイン、スウェーデンの3カ国のみで、日本は決して狭い国ではない。

さらに、日本は四方八方海に囲まれた島国である。海岸線から12海里（約22km）の領海*と海岸から200海里（約370km）の排他的経済水域EEZ**の面積が、国土面積の12倍（447㎢）で、アメリカ、オーストラリア、インドネシア、ニュージーランド、カナダに次いで世界6番目に広い。また、日本は島々が多く、入り組んだ海岸線***のためカナダ、ノルウェー、インドネシア、デンマーク（グリーンランド）、ロシアに次いで世界で6番目に長い海岸線（29,751km）を有している。これはアメリカやオーストラリアよりも長く、赤道の約3/4に及ぶ長さである。日本は島国で典型的な海洋国家といえる。「日本は小さな島国」のイメージが変わってしまう。

日本人は古来より外国と行き来し、物を運び、海産物を食べ、塩をつくるなど、海の恵みを受けてきた。その恩恵に感謝して7月第3月曜日を世界で初めて「海の日」として国民の休日になっている。日本の東西南北の端は、「えーと、みなおきている よな」⇒北は「えーと」択捉島、東は「みな」南鳥島、南は「起きています」で沖ノ鳥島、西は「よな」で与那国島である。

日本最南端の南鳥島は、二重のテトラポッドに囲まれた円いコンクリートの中にある海拔1m、満潮時は約16cmの小さな島である。近海には数百年分のレアアースをはじめ、コバルトやニッケルなどの希少金属が確認されていることもあり、近年、中国は島ではなく岩と主張し、空母を派遣し軍事演習を実施した。南鳥島の排他的経済水域EEZの面積は、国土面積より広い43万㎢である。

最北端の択捉島は北方領土の1つで、ロシアに占拠されており日本人は住んでいない。日本人の住む最北は北海道稚内市の宗谷岬。最東端は東京都小笠原村南鳥島で、最南端は東京都小笠原村沖ノ鳥島だが、一般人の立ち入り禁止となっている。日本人が住む最東端は北海道根室市納沙布岬、最南端は沖縄県竹富町波照間島で500人が住んでいる。

*領海：主権が及ぶ海域（外国船は勝手に航行できない）

**排他的経済水域：漁業や資源開発の権利を持つが、外国船の航行は自由。その外側が「公海」

***正確な地図になるほど海岸線が長くなる。統一するためアメリカの地図に基づいた数字

山形県の地形

山形県は人間の顔の形をしている。彼は高貴な人で、いつも銀の王冠をかぶり美しい目をしている。でも、一人で寂しい生活を送っているの、涙が彼のほほを流れている。

〈質問〉 1. 銀の王冠とはなんだろう？（ヒント：雪に覆われる山） 2. 美しい目とはなんだろう？（ヒント：都市名）
3. 涙とはなんだろう？（ヒント：河川名） 答1：烏海山 2：酒田市 3：最上川

山形県は「山寄り」の県を意味する。県の東側、宮城県との境を奥羽山脈が走り、北側の秋田県との境には丁岳山地と神室山地が横たわっている。そして、丁岳山地から月山に向かって出羽丘陵が伸びている。月山の先には朝日山地（連峰）が連なり新潟県との県境をなしている。さらに朝日山地に続く飯豊山地は新潟と福島県、吾妻山地は福島県との境になっている。

山形県は鶴岡と酒田の庄内、新庄の最上、山形の村山、米沢の置賜の4つの地域に分けられる。ところで、米沢から山形、新庄経由で庄内にくる道路や鉄道思い浮かべてみると、各地域の間にはトンネルがある。庄内地方は、西側が日本海に向かって開けた平野であり、他の3地域は四方山に囲まれており、米沢盆地、山形盆地、新庄盆地と呼ばれている。最上川は県南部の吾妻山地に源を発し米沢盆地に入り、山形、新庄の両盆地を通り抜けて庄内平野に入り日本海に注ぐ。

〈質問〉 4. 最上川は3つの盆地、すなわち山地を流れ抜けることができるのだろうか？

これは、最上川が、盆地形成される前から流れていたと考えられる。そして盆地間の地盤が徐々に隆起し始めるが、最上川は川底を侵食し続けた。結果的には、地盤隆起より最上川の浸食力の方が大きかったので、そのまま流れることができたと考えられる。隆起と侵食の競い合った証は、急流、浅瀬となって盆地間に残っている。米沢盆地と山形盆地の間の五百川峡谷、山形盆地と新庄盆地の間の三の瀬や隼の急流で知られる碁点峡谷、新庄盆地から庄内平野に抜けるところ、観光船下りで知られる最上峡谷などである。ところで、日本海側は、冬季は深い雪に閉ざされる。これらの雪は日本海上で生まれ、シベリア高気圧から吹きだす季節風によって運ばれてくる。特に、新庄と米沢地域は降雪量が多いことで知られている。新庄盆地の西側を最上川が流れ庄内平野に入る。雪となる水蒸気をたっぷり含んだ季節風が最上川、最上峡谷に沿って新庄盆地に直接吹き込んで大雪をもたらしている。一方、山形盆地の西には2,000m級の月山（1,985m）、朝日連峰（1,870m）が屏風のように横たわっている。季節風はこれらの山々で雪を降らせてから山形盆地に吹き降ろしくるので比較的小雪となる。そして、奥羽山脈で再び上昇して雪を降らせる。従って、蔵王に降る雪は乾燥したサラサラ雪となり、スキーに適している。月山と朝日連峰の積雪は、多いところでは15mを越す。これは世界でも珍しい降雪量となる。これらの雪は夏でも無くなることはなく、毎年ほぼ同じ量の雪が年を越す「越年雪」と呼ばれている。年々積雪が増えていく万年雪ではないので氷河になることはない。沢盆地もまた新庄盆地と同じく西に向かって河川が流れており、越後平野から冬の季節風が直接吹き込み、大雪をもたらす。

山の名称と地名

日本の国土の約75%が山地で、沢山の山がある。それぞれの山に名前が付いている。山名には3~4つのタイプが見られる。「~山」(サ、ザ、マ)、 「~岳(嶽)」(タ、ト)、 「~峰(峯)(嶺)」(ミ、モ)、 「~巔」(テ)、 「ヌプリ」などである。「巔」は珍しい呼び方だが峰と同じ意味。ヌプリはアイヌ語で山を意味する。これらの間に明確な規定はないようだが、「山」は独立した山を呼ぶことが多い傾向にある。例えば「富士山」、「鳥海山」などである。これに対して「岳」は連なった山、山脈の中の山を指す場合が多く、概して高山、険しい山の場合が多い。日本に3,000mを越す山が21座あるが富士山、御岳山と立山を除き他は「岳」である。朝日連峰の主稜線上の大朝日岳、以東岳。蔵王連峰の馬の背で繋がっている熊野岳と刈田岳など。「峰」は山々が集まるところに見られ、北蔵王の「名号峰」、南蔵王の「杉ヶ峰」、朝日連峰のオツボ峰、中信高原の霧ヶ峰などである。勿論、例外も多い。例えば、薩摩半島南端の「開聞岳」は、薩摩富士とも呼ばれる独立峰だが岳となっている。近年、山名などが現地名に変更されている例がいくつか見られる。例えば、オーストラリア大陸のほぼ中央の「エアーズ ロック」が「ウルル」になった。エアーズはイギリスの探検家が発見した当時、南オーストラリア植民地首相の名前であり、ウルルはアボリジナルの呼称で「偉大な石」を意味し、彼らの聖地である。同じくオーストラリアのクィーンズランド州海岸南部のフレーザー島がアボリジナルの呼称であったクガリ、精霊に変更されている。北米大陸最高峰の「マッキンリー山」は知事の名前で、「デナリ山」は先住民の言葉で「偉大なるもの」の意味を持つ。また、世界最高峰のエヴェレストはインド測量局長官ジョージ・エヴェレストに因むが、チベット語で「大地の母神、世界の母神」を意味するチョモランマに、ネパール語で「世界の頂上」のサガルマータが地図帳に併記されるようになった。先住民の呼び名が復活させることは、彼らの復権を意味すると共に地名本来の役割を示すものと言える。同じようなことが北海道の地名にも言える。先住民のアイヌが文字を持たなかったため、地形やその特徴などからの呼び名が、音声からの地名になった例である。札幌の語源は「サツ・ポロ」で、乾いた広いところ、あるいは「サリ・ポロ・ペツ」の大きな湿地のあるところの説もあるが、どちらも豊平川の扇状地ということで、扇中央部の水捌けの良いとなるし、扇端部の湧水帯に当り湿地帯ともなる。他にも、小樽は「オタル・ナイ」で、河口で砂浜に流れ込むところとされている。留萌は「ルル・モ・ペ」で、潮が静かに満ちてくる川の意味だという。どれもアイヌの人々が見て感じた地方、その特徴からの呼び名で、今日の地名とは似ても似つかぬものになっている。同じようなことが市町村合併などによる新しい町名、市名で、地名の持つ意味が失われてしまった例が見られる。例えば、さんずいの漢字地名は水に関わる由来で、海や河川から離れているのに波、津などは、過去に河川の氾濫や津波の被害のあったことを暗示している。地名にはその土地の地理や歴史が集約されている場合が多い。古人の思い入れや意味が込められていることを大事にしたいものである。

岬 考

日本は島国で、至る所に岬がある。その中で歌や小説の舞台になり有名になったものがいくつかある。例えば、歌で知られる北海道の宗谷岬、襟裳岬、知床半島、青森の竜飛岬、福島の塩屋岬などが思い浮かぶ。本来の魚を待つ意味から、思いを寄せる人を待つ意味で有名になった函館の立待岬、他にも強風で知られる高知県室戸岬や和歌山県潮岬、野生ウマの鹿児島県都井岬や青森県尻屋崎、アイヌ語で「断崖」を意味する「ポロ・チケブ (ci-ke-p)」が、チキウに転訛した室蘭市の地球岬などがある。

世界に目を向けると、アフリカ大陸南西端の喜望峰、ヨーロッパ北端のノールカップ、ユーラシア大陸最西端のロカ岬、南米大陸南端のホーン岬、3つの海が交わるインド半島南端コモリン岬などが思い浮かぶ。喜望峰は、初めは「嵐の岬」であったが、インド航路発見の希望から「喜望峰」(CAPE OF GOOD HOPE)と名を変えた。日本語に直訳すると「希望岬」となるが、「喜望峰」となった理由は解っていない。しばしばアフリカ大陸最南端と誤解されているが、最南端は東南東へ150 km行ったアガラス岬である。ポルトガルは北と東側が大国スペインから囲まれ、西と南側が海に面している。陸路で活路を見出すことは不可能であり、海に乗り出すより術がなかった。結果として、これがバスコ ダ ガマのインド航路発見へと繋がっていく。ユーラシア最西端のロカ岬にポルトガルの詩人カモンイスの抒情詩の一節「ここに地果て、海はじまる」と刻まれた碑が建っている。ノールカップは、ノルウェー北部マーゲロイ島にある岬で、最北の地は1.5 km北のクニフシェロットン。ノールカップは北緯71度10分21秒で北極圏、夏は真夜中の沈まない太陽、白夜を求めて多く観光客が集まる。ホーン岬はスペイン語ではオルノス岬で、ここを通過する経線が太平洋と大西洋の境とされといる。最南端はさらに南のディエゴ・ラミレス諸島。岬に近いウスワイア港近くの道路法面に“USHUAIA end of the world beginning of the everything”と書かれていた。ウスワイアを目指す旅人は多い。しかし、この地で旅を終える人はいない。何日か、何週間か、何か月か体を休めた後、みんなが再び新たな旅に向かって去って行く。コモリン岬は、インド名がカニヤ・クマリ（処女岬）で、インドで唯一太陽が海から昇り、海に沈むところでヒンズー教聖地の1つになっている。

ところで、日本地図帳には「みさき」の意味で岬、崎、埼、碕、鼻、角などの文字が使われている。特異なのは、北海道は岬のみだが、東北から沖縄までは、いろいろな字の「みさき」が入り混じっている。土遍の「埼」は、海上保安庁海洋情報部が明治時代の海軍水路部のころから海図に採用し、山遍の「崎」は国土地理院の前身である陸軍陸地測量部が採用していた経緯から引き続き使用しているという。みさきの文字による意味の違いはとなると、いろいろ述べられているが、大きな違いはなく海側に突出した陸地のことである。なお、山形県の「みさき」は、鶴岡市2つ、酒田市4つ、遊佐町1つの計7つで、「岬」が1つ、「崎」が6つである。

日本だけの呼び方

オリンピック発祥の地はギリシャと覚えている。しかし、ギリシャという国の呼び方は日本以外では通用しない。40 数年前、アテネでヨルダンのアンマン行き航空券を買い求めようとした時、日本の地図帳に国名と首都として記載されているヨルダンもアンマンも通じなかった。日本語でカタカナ表記になっていると、そのまま英語による国名と思ってしまうが、全く異なる場合が多い。国内で日常的に使用している国名、アメリカ、イギリス、オランダやドイツなども外国では全く通じない。アメリカは United States Of America で通称 the U.S.A、the U.S、あるいは the States が一般的である。イギリスはグレートブリテン及び北部アイルランド連合王国 (United Kingdom of Great Britain and Northern) で、通称 UK あるいは Great Britain、オランダは The Netherlands、ドイツは Germany、スイスは Switzerland である。

日本で UK を「イギリス」と呼ぶようになったのは、ポルトガルと交易していた江戸時代まで遡る。ポルトガル人がイギリス人、即ちイングランド人を意味するイングレス (Inglez) と呼んでいた。これが変化してイギリスとなったとされている。オランダの英語名は、” The Netherlands ” (「低い土地」の意味) だが「オランダ」と呼んでいる。16 世紀、今日のオランダ中央部を支配していた小国をホラント (Holland) と呼んでいた。これをポルトガル人がオランダ (Holanda) と呼んだことに始まるとされている。イギリスもオランダもポルトガル語が誤って用いられたことに起因している。ドイツの英語名は “Germany” で、「ゲルマン人の地」の意味である。ドイツはドイツ語の Deutschland に由来し、民衆、大衆の意味である。ギリシャの正式名称は “Elliniki Dimokratia” (イリキ ディクラティア)、英語名が ” Hellenic Republic ” で、何処の国か全く解らない。ギリシャ国民は自分たちの国をエラス、ヘラスと呼び、ギリシャとは言わない。日本人だけがギリシャと呼ぶのはポルトガル語のグレスシア (Glesia) が語源で、英語読みの Greece である。スイスは英語で Switzerland だが、日本ではスイス (Swiss) でスイス人やスイスの、の意味である。

日本は「現地呼称主義」を採用し、国名や地名はなるべく現地の人呼び方、発音で呼称しているが、これはあくまでも原則で例外が多い。また、現地の人々との語らいで日本の地図帳に記載されている「パミール高原」と話していたら「パミール」、「サハラ沙漠」は「サハラ」、「ゴビ沙漠」は「ゴビ」と訂正されたことを思い出す。多くの外国人は日本のことを Nippon、Nihon ではなく、英語表記の Japan と呼ぶ。元をたどればかの有名なマルコポーロによってヨーロッパに伝えられた「黄金の国ジパング」が元になっているという。2003 年、法改正で多くの国名が変わった。ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォ表記はバビブベボに改められアルゼンティンはアルゼンチン、ヴィエトナムはベトナムなどへ変更された。しかし、イギリスやオランダもサハラ沙漠やパミール高原もそのままである。小中学校にも ALT が配置され英語に親しむ機会が増えた。そろそろ英語読みの国名や地名を地図帳に作用しても良い頃ではないだろうか。

無番地の国と日本の無番地の村

10年程前、人類発祥の地と少数民族を訪ねて1ヶ月間エチオピアを旅した。現地の業者を通して首都アディスアベバのホテルを予約した。受け取ったバウチャーにはホテル名、宿泊日、電話番号などは記載されていたが、ホテルの住所がなかった。問い合わせしてみると、「〇×通り、△▽の隣」の返信がきた。空港からタクシーで向かったが、何の支障もなかった。エチオピアは首都のアディスアベバでもまだ番地は整備されていないのだという。また、半世紀も前になったが、インドのムンバイ（旧名：ボンベイ）の「インド門」（Gate way of India）を訪ねた。国内外の多くの旅行者で賑わっていた。ここをめぐらしている様子のインド人とあれこれ話しているうちに、「日本から絵葉書をくれ！」といわれた。住所は” Gate way of India ”で届くという。そして、何通かの外国からの絵葉書を見せてくれた。

40年ほど前、八丈島から南に70km、「村営あおがしま丸」（50t）で青ヶ島に向かった。伊豆七島からもまれており、伊豆諸島に辛うじて顔を出す小さな島である。この年の4月から週2便になったが、これはあくまでも予定である。島からの眺めは360度の円い水平線で、島は黒潮の流れる荒海の中である。

島は火山島で、周りは50~270mの海食崖で「鬼ヶ島」とも呼ばれている。唯一の三宝港は西向きの30m突堤だけである。従って、西風が吹けばたちまち船止めとなる。浜辺には1軒の民家もなく、漁業を専業にしている人は誰も居ない。島は二重のカルデラで天然のサウナがあった。島内を走る車の半分はナンバープレートがなかった。近海はムロアジの好漁場で、クサヤが特産物の島である。でも、港がなく少し波が高くなると船が接岸できなくなり、ムロアジは他の市町村に水揚げされてしまうので、村の領海を主張した島、村でもある。東京都でありながら、人口（162人 '23）の全国で最も少ない市町村である。住所は全て番外地扱いの「青ヶ島村無番地」で大字、小字は勿論番地もない。島で「本日、あおがしま丸が入港します」という有線放送を聞いた。島民はエンジンの音色で、あおがしま丸であることが解るという。乗船誓約書の1項目に「乗船及び艇作業中、船体の故障または天災等による事故が発生いたしましても当方に於いて責任をもって処理し、貴村に対して損害賠償責任の訴訟等はいたしません」とあった。

2014年、アメリカの観光保護NGOの“One Green Planet”が「死ぬまでに見るべき世界の絶景13」で取り上げられ、2016年にスミソニアン博物館が「活火山内に眠る日本の街」として紹介されたことで世界から観光客や取材班が来ていると聞いた。宿泊している民宿で、島民23名の忘年会が開かれた。遠来の客ということで引っ張り出された。その席で、一人の島民から釣り竿を持っていないので、税務署の人かと思い警戒したと言われた。島を離れる日、顔馴染みになった若者たちが港に来ていた。荷揚げなどの仕事があるわけでも、見送る人が居る訳でもない。「正月を島で迎えないで帰るのか？達者でなァ、また来いよ！」何とも温もりのある声だった。

似て非なる国名

日本政府が承認している国は、2023/9 現在で 196 カ国ある。その中には国名が似た多くの国家がある。その代表的な例がオーストリアとオーストラリア、パラグアイとウルグアイ、イランとイラク、アルジェリアとナイジェリア、エストニアとエリトリア、ギニアと赤道ギニアとギニアビサウなどである。

東京にあるオーストリア大使館に、オーストラリア大使館と間違ってくる人が結構いるという。それで、オーストリア大使館では、オーストラリア大使館までの地図を掲示していると聞いた。オーストリアとオーストラリアは、日本人だけでなく欧米でも二つの国を混同する人が多いらしい。ウィーン国際空港内の店に「オーストリアにはカンガルーはいません」とプリントされた T シャツが売られていた。オーストリアは、ドイツ語が語源で「東の国」、オーストラリアはラテン語源で「南の国」という意味である。

南米のパラグアイとウルグアイも似ている。パラグアイは、大河のある土地、鳥の冠を被った人々の国など複数の説がある。ウルグアイは、ウルという鳥の住む川、巻貝の多い川などの説がある。どちらも先住民族グアラニ族の言語で、川に因んだ言葉が国名になった。しかもアルゼンチンを挟んで隣国同士である。どちらの国も隣国アルゼンチンの首都ブエノスアイレスの喧騒とはかけ離れた落ち着いた静かな街であった。双方の人口構成を見ると、パラグアイの 96.5%が先住民と白人との混血メスチソに対してウルグアイはイタリアやドイツ、フランスなどヨーロッパ系白人が 90%以上と対照的である。

北アフリカのアルジェリアと西アフリカのナイジェリアは、ニジェール川を挟んだ隣国で、北側に位置するのがアルジェリアで、「アルジェ市の国」という意味。アフリカ最大の国土面積を有し、公用語はアラビア語。一方のナイジェリアはニジェール川南側で、「ニジェール川流域の国」の意味でイギリス人のジャーナリストによる命名。アフリカで最大の人口を有する。公用語は英語で、イギリス連邦に加盟している。双方の国名には何ら関連性はなく、勿論、日本語で表記すると「アル」と「ナイ」との違いとなるが、偶然でありなんの関係もない。

イランとイラクは隣国同士である。イランの語源はギリシャ語のアーリア人の国から転化した。一方、イラクは低い土地即ちメソポタミアから転訛した。双方の共通点は膨大な原油埋蔵量を有し、産業の大部分を占めているイスラム教の国家である。他にも、リビアとリベリア、アイスランドとアイルランド、アンドラとアンゴラ、ボスニアとボツワナ、スロバキアとスロベニアなど似たような国名の国がある。また、アフガニスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、トルコメニスタンなどの「スタン」はペルシャ語で「土地」を意味する。従って、アフガン人の土地、ウズベク人の土地となる。改めて世界の国々を注意して見みると、カリブ海と大西洋の間的小アンティル諸島やアフリカギニア湾岸、南太平洋に知らないままの国々が結構あることに気が付いた。

北極圏

北極圏は北緯 66° 33' 以北の地域で、冬至を中心に真冬は太陽が昇らない極夜となり、夏至を中心にした真夏には太陽が沈まない白夜となる。北極海とその海域の島々と寒帯気候の大陸沿岸を含むが、北極点をはじめ約 80%が北極海である。北極海と太平洋の境はベーリング海峡だが、大西洋との境界はとなるとやや複雑になってくる。一般にはグリーンランドからスヴァールバル諸島とノルウェー北端ノール岬を結んだ線で、北大西洋海流の流れ込むノルウェー海は含まれないのが一般的である。

北極の氷は海水が凍った海氷で厚さは数mで、最も高くなっても 10メートル位といわれている。また、北極は膨大な海水域であるため陸地に比べて温まりにくく、冷えにくい特徴がある。海氷が発達する冬季でも海水温は-2℃程と言われ、年平均気温は-25℃位で南極に比べてかなり高い。また、南極同様降水量は少なく、南極について地球上 2 番目に広い沙漠が発達している。

北極圏は厳しい気候で住む人は多くないが、都市も存在している。ロシアのムルマンスク、ノリリスクやノルウェーのトロムソ、フィンランドのロヴァニエミなどで、スカンジナビア半島北部に住むサーミ人、カナダ北部やグリーンランドにはイヌイトなど先住民も含めて、200 万人程定住している。なかでも、ムルマンスクは北極圏最大の都市で人口 32 万人、ロシアを代表する港湾都市である。北極圏に位置しているが北大西洋海流の影響で、世界最北の不凍港の 1 つでも知られている。フィンランドのロヴァニエミはサンタクロースの故郷として有名であるが、ラップランドの中心都市である。また、「尖がった山」の意味するスピッツベルゲン島中心にスヴァールバル諸島も含まれる。12 世紀、バイキングによって発見され、16 世紀に捕鯨基地となり、19 世紀に入ると石炭採掘や漁業が行われた。近年はシロクマ、北極キツネ、アザラシやクジラなどの野生動物ツアーが人気を集めている。島内に点在する集落を結ぶ道路はなく、犬ソリやスノーモービルで行き来していると聞いた。この島は自然災害の少ないことから永久凍土層の中に 300 万種の種子を保存するという国際的なプロジェクトが 2008 年から始まった。今後予想される深刻な気候変動や自然災害、植物の病気の蔓延、核戦争などに備えて農作物の絶滅を防ぐことを目的とした植物版「ノアの方舟」で、ノルウェー政府が所有、管理している。

北極圏を取り巻く国はアイスランド、アメリカ、カナダ、スウェーデン、デンマーク（グリーンランド）、ノルウェー（本土とスヴァールバル諸島）、フィンランドとロシアの 8 カ国である。パタゴニアを旅した時、スピッツベルゲンで観光ガイドをしているノルウェー人と一緒になった。スピッツベルゲンでの再会を約束したが、ブエノスアイレスのバスターミナルで手荷物の盗難に合い、ガイドの名前も連絡先も失くしてしまった。スヴァールバル諸島は見果てぬ遙かな地のままである。着古した防寒着姿で穏やかな表情のガイドとの約束を、自分の不注意から守れなくなったことを悔み続けている。

沙 漠

日本は世界でも多雨地帯であるモンスーンアジア東端に位置しており、世界平均年間降水量が880 mmに対して、日本は1,718 mmでほぼ2倍である。東京の月別降水量を見ると梅雨の6月と台風シーズンの9～10月の降水量が多く、雨期が2回ある。庄内地方は2,200～2,300 mmで、赤道直下に匹敵する。日本の多雨地帯の対極が総陸地の1/4を占める乾燥帯である。なかでも、沙漠は日本には存在しないし、疑似体験も出来ない。将に異郷の地であり、憧れのようなものさえ感じる。同時に誤解も生じる。例えば、ロマンに満ち溢れたシルクロードへの憧れであり、童謡の「月の砂漠」などである。ところで、沙漠の定義は「年間降水量が250 mm以下」、「降水量より蒸発量が多い」、水分がマイナスになるところで、気温や砂は関係ない。分布を具体的にみると、1つは南北緯度30度付近で年中、中緯度高圧帯に覆われているアフリカ大陸北部のサハラやアラビア半島北部のネフド沙漠、オーストラリア大陸のグレートビクトリア沙漠など、2つ目は沖合を寒流が流れているペルー沙漠、アフリカ大陸南西部のカラハリ沙漠、チリのアタカマ砂漠など、3つ目は山脈の風下側に見られる南米大陸南部のパタゴニア、4つ目は大陸内陸部、中国のゴビやタクラマカン沙漠など。5つ目は極地沙漠で氷床、氷原、氷帽などに覆われている地域である。地球上の最大の沙漠は南極で1,382万9,430 km²、2番目は北極で1,370万km²、3番目がサハラで910万km²である。

氷に覆われた極地沙漠を除いた沙漠を見ると、最も広いのが岩石沙漠（ハマダ）、次が礫沙漠（シグ）で砂のある沙漠、「砂沙漠」（エルグ）は全体の20%以下で、沙漠と砂は関係ないことが解る。なお、サハラの70%が礫沙漠、10%が岩石沙漠で砂沙漠は15～20%と言われている。従って、意表文字では「砂漠」より「沙漠」の方が正しい表記といえる。なお、サハラの礫沙漠に散らばる小石の表面は、風で飛ばされてくる砂によって磨かれて平らで光沢を放っていた。また、北アフリカや西アジアで見た沙漠の電柱の多くは丸太であった。風で移動する砂によって侵食されて地上から10～20 cm位のところがビーバーから齧られたように窪んでいた。改めて砂の侵食力の大きさに驚かされた。

アフリカ大陸の南西部にナミブ沙漠がある。8,000万年前に生まれ、以来現在まで存在し続けている世界最古の沙漠である。南アフリカのオレンジ川によって海岸に運ばれた砂が、海上からの強風で内陸に運ばれて形成された沙漠である。内陸に移動する間に鉄分が酸化して赤く変色してしまう。内陸部の砂丘ではアプリコット色と形容される美しい砂肌の砂丘がうねるように連なっていた。また、干上がった沼地に立ち枯れた木々が点在しており、デッドフレイ、死の沼地と呼んでいた。モロッコの首都ラバトで大学生から「何処に行ってきた？」と話しかけられた。「サハラ」と答えると、「サハラの何処か？」と聞き返された。「アウラザザッテからザゴラに行ってきた」というと、「あそこは美しいオアシスだ」の答えが返ってきた。現地の人々は人間が住んでいるところはオアシスであり、人の住んでいないところが沙漠、サハラと明確区別していた。

南極大陸

南極と言った場合、狭義には南極大陸を指すが、一般には棚氷が広がる海域をも含めて呼んでいる。南極大陸は、平均厚さ 2,450mの氷床で覆われている。最も厚い所は 4,500m を越し、地球上の氷河の 90%が集中している「氷の大陸」である。氷に覆われた大陸ということから年間の平均気温は内陸部で-50~-60℃、海岸部で-10.5℃で凍てつく大陸である。また、内陸部は年間降水量が 50mm 以下と少なく、降水量よりも昇華*によって失われる水分が多く、乾燥しており世界最大の沙漠が広がっている。南極大陸に最も近い人間が常住するところは南アメリカ大陸南端のフェゴ島だが約 1,000 kmも離れている。孤立した大陸で、人類がその存在を確認し、初めて上陸したのが 19 世紀初頭でほんの 200 年ほど前のことである。生息する動物は、飛ぶ、泳ぐ種類に限られている。最大の生物はペンギンで他にアザラシ、オットセイ、クジラなど水生哺乳類、トウゾクカモメやアホウドリなども生息している。*個体が液体の状態を経ずに直接気体になる現象

1957 年、高校時に南極観測隊（正式には南極地域観測隊）が始まった。国外向けは Japanese Antarctic Research Expedition (JARE) で、国内向けとはニュアンスが若干異なる。高校山岳部の薄暗い部室で 3 年部員の NG さんが「南極に行くことに決めたから、商船大学に行く」の言葉は、入学間もない自分には衝撃的だった。後に、初代宗谷の機関長として南極行を実現されたことが、南極を身近な存在にしてくれた。その後、夢中になって登っていた冬山の先に漠然とながらも白い大地への憧れを持ち続けていた。2000 年 2 月にラップランド**で北極圏を旅し、いつかは南極圏にもの思いが募った。気になるのが南極クルーズ船の料金である。日本発着ツアー料金は手も足も出ないが、ウスワイア発着の料金は日割計算してみると 3.5 万円ほどで交通費、食事代、宿泊費など全て込みで何とかなる料金である。なお、南極大陸の気候は、寒帯の氷雪気候区で日本の冬山で疑似体験できるので、日頃使用している冬山の装備で全て間に合った。

最初、調度品がマホガニー材で統一されているというマルタ船籍の 익스プローラ号を申し込んだが、生憎、最安値の船底船室は満席だった。2 日遅れて出港するマルタ船籍オルロバ号を選択し、ブエノスアイレスでチケットを購入した。なお、日本人が南極大陸に上陸するには環境省へ上陸届の提出が義務付けられていることを知った。ところが、オルロバ号が出航して 3 日目、南極海を航行中に 익스プローラ号が冰山か氷塊に衝突し沈没したことを知った。深夜、日本でこのニュースを聞いた家族は、出航日がほとんど同じなので、ひょっとすると乗船しているのでは…と思ったという。そして、好きなことをやっての事故なら致し方なしとまで話していたことを帰国後に知った。

初日、静かなビーグル海峡を通過した。2 日目の真夜中、ローリングとアップダウンで目を覚ました。最安値の船底前方は最も揺れるところだ。「唸る 50 度」に差し掛かったことを知った。これから「叫ぶ 60 度」が待っている。ここドレーク海峡は 365 日嵐の海だ。距離にして 1,000 km、通過するには 51 時間かかる。**スカンディナ비아半島及びコラ半島のツンドラ地帯でサーミ（ラップ）人居住地

オーロラ

広く知られている自然現象の中で、日本ではほとんど見られないのがオーロラである。昨年（2023）12月1日、道民も敬遠するという日本一寒い陸別町で20年ぶりにオーロラが肉眼でも見えてニュースになった。また、今年の5月11日には北海道、東北始め本州各地の広範囲で観測された。2000年2月、オーロラを見るためスウェーデンのドントレットを訪れた。オーロラの語源はローマ神話に出てくる夜明けの女神「アウロラ」（aurora）だという。地元では aurora より northern lights（北極光）の方が一般的だったのは驚きであった。northern lights は北極側のオーロラを指し、南極側は southern lights で、双方合わせて polar lights と呼ぶことを知った。

ドントレットの初日、天空の一点から光が噴出し、光の揺れるカーテンが空に立ち上がった。そして広がり、突然消えるかと思うとまた息を吹き返した。何の統一性もなく、次を予測することは全く不可能だった。光色で最も見られるのはグリーンだったが、ピンクやレッドも見られるという。その後、カナディアンロッキーのワプタアイスフィールド横断途中にもオーロラに出会えた。

オーロラとは、「宇宙から飛んでくる電気を帯びた微粒子、プラズマが、地球の大気とぶつかって放電し、そのエネルギーが光となり帯状に映る自然現象」と説明されているが、大半の人にとっては解ったようで解らないのが実情である。こんなことで悩むより壮大な自然界のパノラマを目の当たりにして驚嘆の声をだし、自然界に恐れを抱く方が人間として素直な生き方に思える。北欧の先住民サーミ人の間ではオーロラにも魂があると信じられているという。この自然現象に神秘と共に、畏敬の念のようなものが湧いてきた。北極圏に住む人々もオーロラをあがめ、幸運をもたらすという考えがあると聞いた。極北の人々は、極夜には輝く太陽が姿を消しもぐらのような生活が強られる。しかし、極夜は永遠ではなく太陽が再び戻ってくる「あかし」がオーロラだという。自然の驚異に茫然自失から現実を引きずり込んだのは、足元から忍び込んでくる寒さだった。コテージへ戻る時、雪は靴で踏まれる度にキュキュと鳴いた。

日本のオーロラツアーを見ていると、カナダノースウエスト準州のイエローナイフが圧倒的に多い。ところがカナダ人にとって、エドモントンからイエローナイフに飛ぶ航空運賃が、ヨーロッパに飛ぶより高いことから極北の遠い所のイメージが定着していた。また、オーロラが出ない時に備えてナイヤガラ滝と組み合わさっている。カナダ人の勧めるオーロラ鑑賞地は、アルバータ州北東部フォートマクマレーで、北半球に於けるベストスポットだという。知名度は低いが、サンドオイル産業が盛んでトロント、バンクーバー、エドモントンやカルガリーから空路が開かれ、バンクーバーとエドモントンからはバスも走っているという。オーロラベルト真下で、3泊するとオーロラ出現率は96%だという。オーロラ鑑賞の他にも渓谷のアイスウオーク、スキーにスケート、犬橇など冬のアクティビティーが揃っており、何日滞在しても飽きることはないという。なお、フォートマクマレーは、ウッドバッファロー内の一地区である。

色とりどりの海

世界には色名のついた海が幾つかある。東アジアの黄海、ヨーロッパの南東部の黒海、アラビア半島とアフリカ大陸に挟まれ紅海、ロシア北西部の白海、それにもう一つ中国西部チンハイ省の青海がある。

黄海は朝鮮半島と大陸の間の海で、黄河が注ぐところである。韓国の金浦空港から北京に向かう途中、黄色っぽく濁っている黄海が望まれた。黄河が運ぶ大量の黄土によることが解る。黒海はアジアとヨーロッパの間、具体的にはトルコ、ルーマニア、ウクライナ、ロシアに囲まれ、ボスポラス海峡で地中海に通じている。大陸と半島に囲まれた地中海である。古代ペルシャ人が温暖で穏かなペルシャ湾に比べて北特有の暗く荒れたイメージから「暗い海」、それが転じて黒海になったといわれている。トルコのトラブゾンからイスタンブールまで1泊2日のフェリーに乗ったが、夕方と早朝の海水は濃紺色で黒色に近かった。紅海はアフリカ大陸とアラビア半島の間の細長い海で、北西部のスエズ運河で地中海と、南東部はマンダブ海峡でアデン湾、アラビア海に繋がっている。赤潮が頻繁に発生するとか、紅いという意味を持つ先住民に由来とか、エジプトのサハラの色など諸説ある。イエメンのモカとエジプトのスエズで紅海の波打ち際に立ったが、乾燥地帯特有のちょっと薄めの青い海水だった。白海はロシアの首都、モスクワの北で北極圏の近くである。白は北を暗示すると同時に北国特有の曇り空によって海面が白く見えることに由来するといわれている。訪れたことも見たこともないが、冬季には凍結すると聞いた。

もう一つの青海は海ではなく湖で、中国語でチンハイと呼び、ゴビとチベット高原の間にある。黄河の源頭部で標高 3,300m の中国最大の湖でもある。モンゴル語でココノールと呼ばれ「青い湖」の意味で、チンハイ省の由来にもなっている。湖水は少し白味があった青色で、遠くから眺めると美しく見えたが、周辺一帯はヤクの放牧地となっていた。

アメリカのカントリーミュージックに、西部開拓時代の白人男性とネイティブアメリカン女性の恋を歌った“Red River Valley”（赤い河の谷間）がある。レッド川は、テキサス州北西部から南部を横断しミシシッピ川に注ぐ大河である。レッド川の水が赤色というより、テキサスの赤茶けた岩山が広がる赤い大地を意味している。この歌はアメリカの原風景でフロンティア精神を掻き立てられる風景の中でのラブソングと言える。アメリカ北西部のロッキー山脈中のイエローストーン国立公園は世界最古、アメリカ最大の国立公園で知られる。この地のイエローストーンは、火山活動による熱水作用で鉄分が変色して黄色になった絶壁や沢山の石が堆積するイエローストーン渓谷に由来している。また、鶴岡市民に親しまれている金峯山の中腹に立派な金峯神社がある。金峯神社中宮の社務所前に小さな祠があり、その傍から清水が湧き出ており、「関伽井（カハ）の清水」と呼ばれている。関伽とは仏に供える水の意味である。鶴岡市内を赤川が流れているが、源流の一つが湯殿山神社のご神体から流れてくるところから、赤川の赤は関伽から転じたと言われている。

4. 遺跡が活動し始める時間と国民の祝日と年次有給休暇（P.39～P.54）

ページをクリックするとそのページに移動します

- 遺跡が活動し始める時間：P.40

- 遺跡が眠りに着く時間：P.41

- 世界一厳しい国境：P.42

- オーストラリア横断鉄道：P.43

- 究極のガーデニング：P.44

- アメリカの切手：P.45

- アメリカにおける日本車：P.46

- 酒の地理的表示：P.47

- 旅と言葉：P.48

- 馬：P.49

- クリスマスプレゼントの始まり：P.50

- 南アメリカ大陸の「世界一」：P.51

- 国民の祝日と年次有給休暇：P.53

- 美人地理学：P.54

遺跡が活動し始める時間

シリアの首都、ダマスカスから北に 167 km のホムスへ、さらに東に向かって 158 km、乗り合いバスで 5 時間、シリア沙漠の真ん中にナツメヤシの緑に包まれたローマ時代の都市遺跡パルミラがある。パルミラは、ギリシャ語でナツメヤシを意味するパルマが起源とされている。パルミラは紀元前 1 世紀から 3 世紀にかけて唐とローマを結ぶ東西交易路、シルクロードの中継地の隊商都市として栄えた。セピア色のアーチ型記念門の背後に列柱道路が 1 km 余も続いていた。パルミラの主神を祀るベル神殿は 1~2 世紀の建造だという。キャラバンで賑わった円形劇場も浴場も廃墟のままだったが、「沙漠の花嫁」に例えられる美しい遺跡であった。アラブ人の中では、「パルミラはソロモンが沙漠の精霊ジンに命じて、一夜にして造らせた都の跡」と言い伝えられているという。

パルミラで泊まったホテルは、バス停で客待ちしていた子どものロバ方の紹介だった。家族経営の小さなホテルで遺跡の中であった。パテオと呼ばれる中庭のテーブルは、折れた遺跡の石柱だった。人影がなくなり、夕日でバラ色に染まるのを待って列柱道路をゆっくりと歩いてみた。中間地点に 4 本の石柱を 4 隅に配した美しい「四面門」があった。腰を下ろすと、その遙か向こうの岩山にアラブ城が聳えていた。遺跡を吹き抜ける風は、精霊たちが動き回る微かな音を運んでくるのを感じた。そして、暗闇に包まれ始めると遺跡全体から様々な言葉が飛び交い始めた。人影の絶える夕べから明け方までの遺跡は、生き生きと活動する不思議な時間帯であった。「遺跡は夕日で目を覚まし、朝日で眠りにつく」ことを実感した。

日本画家の第一人者、平山郁夫氏のシルクロートシリーズのパルミラの絵画は、月明かりに照らされながら群青色の夜の中を行くラクダの行列と、朝陽を浴びて逆光に浮かび上がる列柱とその前を列をなして沙漠へと向かうラクダの群れである。

夜、ホテルオーナーの家族がパテオ、中庭に集まってくる。農業を営む長男、歯科医の三男、小学校で教鞭をとる叔父さん、それに宿泊客のドイツ人、アメリカ人と日本人も加わった。甘いミルクティーを飲みながら持ち寄ったものを食べながら語り合う。沙漠を吹き抜ける夜風は心地好い。夜の語らいは、沙漠の民が昔から身につけている知恵であり、娯楽である。23 時を過ぎてもまだ語らいは続いた。4 時頃には夜明け前の礼拝が始まるというのに。

不幸なことに 2015 年 5 月から IS、イスラム国がパルミラを実効支配した。2017 年 3 月にシリア政府軍が奪還したが、1 年 9 カ月の支配期間中に遺跡は次々と破壊された。理由は、「イスラム教成立以前の遺跡は偶像崇拝者のためのもの」といものだった。破壊状況は断片的に報道されるのみではっきりしない。少なくとも、パテオで深夜まで語り合った遺跡内の小さなホテルが無事ということはあるまいと思う。

ホテルのファミリー、ホテルを紹介してくれた少年のロバ方も遊牧民の血を引く人々だけに住む場所を変えてしぶとく生活されていることを願うのみである。

遺跡が眠りにつく時間

モアイで知られるラパ・ヌイ島は、パスクア島とイースター島の3通りの名称を持つ。現地語では「広い土地」を意味するラパ・ヌイ。正式名はパスクアで、スペイン語で復活祭、イースターを意味する。日本では英語読みに由来するイースター島である。

ポリネシアントライアングルの東端で、最も近い有人島まで直線距離 2,000 kmの絶海の孤島である。ここにエジプト、インカ、マヤと並ぶ謎の巨石文明の栄華が残存している。島全体に分布している石の巨像、モアイの数は 1000 体を越す。これらが日本の利尻島と同じ位の島に分布している。なかでも、アフ・タハイは宿の集中しているバンガロアから 10 分ほどの距離で、サンセットのビューポイントであった。黒いシェルエットのモアイ越しに赤く染まった夕日が美しく観光客だけでなく地元民も足を運んでいた。

これに対して、島の東部に位置するアフ・トンガリキは、日の出に輝くところだった。4 時過ぎにレンタカーで宿を出てトンガリキを目指した。島で最も賑わう交差点に唯一の交通信号があった。路上にはまだ人影はない。最も気を付けなければならないのは突然道路に飛び出してくる馬の群れだった。アフ・トンガリキで静寂の暗闇が 40 分ばかり続いた。モアイ制作場所のライ・ララク山の右肩におぼろ月が出ていたが、微かな明るさが空を染め始めると、俄かに忙しくなった。空の色は一時も静止することなく、黒雲から淡い紫へ、そしてピンクから黄金色へと変化した。空の色彩に合わせて巨石像もゆっくりと躍動し始めた。まばゆく力強い陽光で縁取りされ、微かな黄金色に染まった 15 の巨石像は呼吸し、微笑んでいた。腹部のふくらみも、でか過ぎる頭部も、胴の両側に張り付いた両手も日本人に馴染み深い七福神と同じような親しみを覚えた。100m 余のアフ、モアイを載せる石の祭壇に海を背にして整然と並ぶ姿は美しさを越して荘厳であった。時間にしてどれ位のドラマだったのだろうか。

感動、興奮が覚め遣らぬままラノ・ララクに向かって登り始めた。建造途中のモアイが横たわっていた。石工か間もなく現れて作業を始めるような感じで、時間が止まったままの状態であった。近くにはモアイ制作に使われた黒曜石が散らばっていた。

ライ・ララクの帰り、イヌを連れて出勤してきた監視人と会した。遠い日本からということもあり監視小屋でコーヒーをいただきながら 1 時間余も語り合った。レンタカーに戻った時、白日の下に晒されたモアイは微動だにしない石像と化していた。そして、観光客で賑わう頃には深い眠りに着くことを知った。

1960 年のチリ地震による津波でトンガリキ遺跡は、倒壊していたモアイ群を津波が洗うという壊滅的な打撃を受けた。見かねた香川県のクレーン会社がボランティアで復元した。アフと呼ばれる祭壇の端に遠慮がちに復元の様子を伝える記念碑が建っていた

世界一厳重な国境

世界には 200 近くの国がある。これまで 80 カ国余の国境を超えてきたが、ほとんどの国境は友好的であったが、マダガスカル、キューバやロシアなど社会主義国の国境に厳格な傾向が見られた。中でも韓国と北朝鮮の国境、厳密には休戦ラインは世界で最も厳しい国境ではないかと思う。

第二次世界大戦で日本が敗戦の結果、朝鮮半島はソ連とアメリカに分割統治されることになった。1950 年、朝鮮戦争が勃発し、3 年間にわたって混乱した。1953 年に休戦協定に基づいて半島を南北に分断した北緯 38 度線で知られる軍事境界線が敷かれた。休戦協定が結ばれてから事実上の国境となっている。国境の両側に 2 キロずつ、計 4 キロの非武装地帯 (DMZ) が設定された。加えて、韓国側ではその南側に文民統制区域が設置されており、一般の人の立ち入りは禁止されている。まとめると、韓国側には文民統制区域、非武装地帯 (DMZ)、軍事境界線、通称 38 度線と三重になっている。そして、板門店 (パンムンジョム) は 38 度線上にある共同警備区域 (JSA) にあり、国連軍、韓国軍と北朝鮮軍が共同で警備を行っている。南北分断の象徴であり、南北対話の窓口ともなっている。

ソウルの街で板門店 (パンムンジョム) ツアーがあるのを知り参加を申し込んだ。ツアー参加には服装の規制があった。袖のない上着、穴空きや脱色されたジーンズ、半ズボン、トレーニングウェア、膝上ミニスカート、登山靴、スリッパなどなどは禁止されていた。

申し込んだホテルからバスに乗って最初に向かたのが「自由の橋」だった。休戦協定後 13,000 人の戦争捕虜が、南側に渡ってきたという橋だった。その先に古い鉄道が見えてきた。かつてソウルとピョンヤンを結んでいた線路である。駅名標にはケソン 22 km、ソウル 53 km と記されていた。

自動小銃を肩にかけた MP による 2 度のパスポートチェックを経て、非武装地帯で国連軍のバスに乗り換え、ジープに先導されて 38 度線上の板門店に入った。ひと際目立つ韓国側の自由の家と北朝鮮側の板門閣は 80 メートル離れて対峙していた。38 度線沿いにはいくつかの青いペンキ塗りの建物があった。韓国側憲兵は、体の半分は建物に隠れ、残りの半分は北朝鮮軍を監視していた。警備、監視というよりも挑発行為に思えなくもなかった。

ツアー客は国連兵士の案内で一つの建物、軍事停戦委員会の本会議場に、韓国側の入口から入った。部屋の中央には大きなテーブルがあり、その中央に北緯 38 度を示す白い線が引かれていた。白線を目で追うと、建物から外に伸びており、道路を横切っているのが窓越しに見えた。テーブルの半分は北朝鮮である。緊張しながらテーブルを一周した。その後、自由の家で昼食を食ベソウルに戻った。

ソウルに戻った翌日、バスを乗り継ぎオドゥサン統一展望台に向かった。バスは中学生、高校生たちで賑わっていた。ハンガンとイムジンガンの合流地点で、北朝鮮まで直線距離で 460m の近距離で、備え付けの望遠鏡で見ることができた。売店があり、北朝鮮の切手や朝鮮人参酒などが販売されていた。

オーストラリア横断鉄道

オーストラリアには、大陸横断鉄道と縦断鉄道が走っている。横断鉄道はシドニーからアデレード経由でパースまでの4,352 km。シベリア鉄道、カナディアン パシフィック鉄道に次いで世界で3番目に長い鉄道である。正式名はグレートサザンレールウェイだが、インド洋と太平洋を結ぶことから「インディアン パシフィック号」の愛称で親しまれている。初日は午後に乗車し、最終日は午前中早くに下車だが3泊4日の旅である。縦断鉄道の「ザ・ガン号」でアデレードからアリスプリングス経由してダーウィン間での2,979 km、世界最長の南北間の鉄道である。

横断の旅は、なけなしのお金をはたいたゴールドクラスにした。シドニーセントラル駅から真っ赤なカーペットを踏みしめての乗車だった。車両ごとにシャワー室があり、寝台は個室、豪華な3食付きに加えティー、コーヒーはフリーで24時間いつでも飲めた。列車のロゴマークはオナガイヌワシだが、平均時速85 km、最高でも115 kmで、日本の新幹線とは比べものにならない。真っ暗闇の中に浮かぶ星を寝床から眺め、地平線から昇る日の出を見て、青い空と赤い大地のコントラストに息を飲む大陸横断鉄道の旅であった。飛行機に比べて運賃は約4倍、所要時間は12~3倍と贅沢極まりない旅である。

インディアン パシフィック号の走る東海岸シドニーと西海岸パース間の西よりに日本の本州とほぼ同じ広さのナラボー平原が横たわっている。灰色がかった草と小石原がつづき、所々に高さ1m位の灌木が目につく平原に478 kmもの直線の線路が伸びている。東海道新幹線でいえば東京から米原、鶴岡から新潟経由で東京までの距離で、世界最長の直線区間である。人工的なものは何もない荒野の中に、鉄道の継ぎ目を過ぎるときの単調な音を残して5時間余りで横断する。列車の揺れは殆どなく、車窓からの景色は全く変わらない。記録によると最高気温が48.5℃、最低気温は0℃を下回り、年間の雨量は250mmほどあるという。予定より1時間遅れでナラボー平原の真ん中、クック駅に停車した。駅前の放置された建物は乾ききって寂れていたが、「クックはナラボーの女王都市」と書かれていた。また、廃屋に打付けられたボードには、「862 km先のカルグーリーまで食料も燃料もなし」と記されており、まさに陸の孤島であった。列車の最後部に行き、地平線まで真直ぐ伸びるレールをカメラに収めた。最終日の朝がきた。細枝の上にこんもりと葉をつけたユーカリが点在する小麦畑が地平線の彼方まで広がっていた。最後の朝食が始まった。列車は走っている時間と停車が半々くらいで余裕の運行だが、これまでの流暢な食事風景と違ってウェイトレスの後片付けが何となく慌しい。4日間お世話になった個室の後片付けと荷物の整理を終えた時、インディアン・パシフィック号乗車証明書を車掌さんが渡してくれた。

高校の同級生に製鉄会社に勤務し、世界の鉄道を造り、敷設してきたK氏がいた。同級会に切断した世界の鉄道を幾つか持参して見せてくれた。その中に「インディアン パシフィック号」が走る鉄路もあった。同級生が関わった鉄道と知り、より想い出深いオーストラリアの旅になった。

究極のガーデニング

人間と庭園の歴史は古い。古代ギリシャ時代の世界七不思議の一つに「バビロンの空中庭園」があるし、古代ローマ時代の遺跡にも数々の庭園があり、復元されたものをいくつか見てきた。そして、西洋庭園と日本庭園を見ていると、あまりの違いに驚く。西洋では自然を左右対称や幾何学的形状にして造られた人工的な美しさ、言葉を換えれば自然界に存在しない人工美を表現し、自然を支配しているかのように思える。一方、日本は石や樹木など自然なものを取り入れ、人工物は表に出ないように工夫されて自然を受け入れている。すなわち、自然と共存している。更に日本庭園には仏教思想や茶道や華道も加味され、日本独自の自然観が生まれた。例えば、日本庭園には、池や水の流れ、時には水のない川が見られる。これらの向こうに極楽浄土があるという仏教の考えに基づくともいわれている。

1990年代後半、日本にガーデニングブームが起こり各家庭に広がり、ペンション村でのオープンガーデンなどの行事も見られるようになった。そして、山形県内にある「もみじ公園」や「野草園」、「ドンデン平ユリ園」、「東沢バラ公園」なども賑わうようになった。

ギリシャアテネ国際空港から街に出る途中に見えた小麦畑は、目を凝らさないと畑と解らない程雑草が混じっていた。また、諸外国の雨水頼りの水田は、手間暇かけて稲穂の先が揃った日本の美しい水田とは大違いである。釧路生まれの姪が、庄内内平野の緑一色の水田を飛行機から初めて見た時、ゴルフ場の芝生と見間違えた。見ようによっては、日本の水田は広大な庭園にも見えてくる。

その後、スリランカ茶畑の中心地、ヌワラエリヤを旅する機会があった。丘陵の斜面は見渡す限り茶畑で、中に入ると茶葉の緑に染まる思いだった。茶畑の中に白い石で作られた排水路がアクセントとなっており、まるで一幅の絵画であった。日本の水田と共にスリランカの茶畑もまた究極のガーデニングに思えた。世界的紅茶ブランド「リプトン」を創始したトーマス・リプトンは、ヌワラエリアの荒廃したコーヒー園を買い取り、茶農園に転換した。一面茶畑の丘陵地を見渡すたせる高台に、彼が腰を下ろしたとされる「リプトンシート」があった。標高 1,800m の天候はコロコロと変わる。視界を遮る深霧もしばらくすると視界が開けてくる。日中と夜間の気温差も大きい。天候の変化は美味しい紅茶を育てる重要な条件でもある。インド北東部、ヒマラヤ南山麓のダージリンは海拔 2,180m で夏季の避暑地として開発されたが、19 世紀中ごろから茶栽培が始まった。日中はヒマラヤ山麓の強い直射日光で、夜間は冷え込みで気温差が大きくなる。これがダージリン茶だけが持つ落ち着いた渋みを醸し出す。同じく茶産地のアッサムは、高度 500m から 600m の丘陵地帯南側斜面が、世界最多雨地と相まってインド茶の半分を生産する。甘味と独特のコクがあり、ミルクティーとして楽しまれている。茶は気候、土壌や地形などの違いによって香りや味が変わってくることから、産地名が銘柄として使われる根拠となっている。

アメリカの切手

外国から届いた絵葉書や手紙の切手がかなりの数になっていた。これにお土産や記念に購入したものを国別に整理してみると、切手のお国柄が浮かび上がってくる。ネパールとパキスタンは氷雪に覆われた山々、台湾（中華民国）やタイは色彩的に美しく、コスタリカは野生動物が多い。イギリスは王室や歴史的な建造物、オーストラリアは野生動物、アメリカは人物と星条旗が目立ち、カナダは子供たちの絵や大型野生動物が多い傾向が見えてくる。切手はその国の地理、歴史、文化、自然などさまざまな事象を反映するミニチュア美術品ともいえる。近年、インターネットの普及で切手のお世話になることがめっきり少なくなった。手元にあったアメリカの人物切手を集めてみた。

- ウィリアム フレデリック コーティ（1846～1917） 西部開拓時代のガンマン。1867年バッファローハンターとして鉄道建設労働者に食料供給したことから“バッファロー”と呼ばれるようになった。
- ヘンリー フォード（1863～1947） フォードモーターの創設者。カール ベンツが自動車の生みの親なら、彼は自動車の育ての親。T型フォードは産業と交通に革命をもたらした。
- ハリエット クインビー（1875～1912） 1912年、女性で初ドーバー海峡横断飛行に成功。
- ジョセフ スティウエル（1883～1946） 第一次、二次世界大戦で活躍したアメリカ陸軍軍人。
- デニス チャベス（1888～1962） アメリカ生まれのヒスパニックの政治家。郵政公社から35セントのグレートアメリカズシリーズ（1980～2000）の郵便切手
- エディ リッケン バッカー（1890～1973） 航空術のパイオニア。第一次世界大戦で陸軍航空隊戦闘機の撃墜王、カーレーサー、会社社長、政治家の顔を持つアメリカンヒーロー。
- ジャックリーン コ克蘭（1906～1980） アメリカ女性パイロットのパイオニア。女性で初の音速の壁を越え、空母発着したパイロット。
- マリリン モンロー（1926～1962） 女優とモデルとして一世を風靡した。世界で最も売れた切手とか?! ALT アニーが帰省した時のお土産。ロック歌手エルビスプレスリーの切手と一緒にいただいたが、引っ越しなどで行方不明になって仕舞った。

切手に特別興味を持っている訳ではないが、トルコで郵便局に足を運んだ時、職員から「トルコ・日本修好100周年記念」切手の紹介があり、買い求めた。帰国後、日本発行の同じものを並べてみると、余りにも異なる図柄に驚いてしまった。また、手元にある“HELVETIA”の切手をみて、何処の国だろう？と思ったことがあった。4カ国語を公用語にしているスイスでは切手紙面の関係からローマ時代の呼び名を国号と使用していることを知った。

アメリカにおける日本車

2019年8月から9月にかけてグランド・アメリカン・アドベンチャーズのインターナショナルツアー、Yellowstone Wildlife Trailsに参加した。ユタ州ソルトレークシティー集合、ワシントン州シアトル解散、自炊しながらのテント泊、車で移動の旅であった。コースはソルトレークシティーでホテル泊後、西部開拓期の雰囲気が漂うジャックソンで2泊して、アメリカの国立公園で最も美しいと言われるグランドテトン国立公園*でのトレッキング、イエローストーン国立公園に移動して4泊、モンタン州600kmを縦断してカナダに跨るウォーターングレッシュャー国際平和国立公園、通称グレッシュャー国立公園で3泊。2コースのトレッキングを楽しみ、アイダホ州で1泊してワシントン州シアトルまで、旅の前後泊を加えて2週間の旅であった。

夕方のシアトルの街は車で溢れていた。片側6車線を埋め尽くす車の半分以上、6~7割は日本車で、スピードを競うように走っていた。また、これまで食料調達で立ち寄ったスーパーマーケット駐車場でも同じような光景を目にした。アメリカのビッグスリーは燃費の悪い大型車が主力であった。原油高騰を機に大型車は敬遠され、販売台数が急減し2008年7月、アメリカ国内で日本の自動車メーカー8社の販売台数が、ビッグスリーを越えてしまった。

2018年、アメリカで販売された自動車数をメーカー別に見ると、2位トヨタ、5位日産、6位ホンダ、8位スバルと上位に日本のメーカーが名を連ねている。また、アメリカでの車種別販売数を見ると1位から5位まで日本車が独占していた。一説によるとアメリカの車の1/3が日本車とも言われている。これでは日本車がアメリカで袋叩きに合うのも頷ける。

自動車王国アメリカでの日本車の人気の秘密は一体何だろうか。日本は一昔前から「ものづくり大国」と呼ばれ、製造技術に優れた国として評価されてきた。車の製造でも同じで、車の耐久性は群を抜いているという。日本のように車検制度のないアメリカでは車の性能や安全を確保するための製造技術に寄せる期待が特に大きいと言える。故障した場合でも直ぐに修理対応、パーツ供給の速さも人気だという。燃費が良いことに加えて比較的安価であるし、セダンからピックアップトラック、ミニバンなど豊富なボディタイプが車選択の幅を広めている。加えて、近年はデザインでも選ばれるようになったという。いづれにしても日本人特有のきめ細やかな製造技術とサービスの賜物に思えた。

アメリカで見る日本車は外国車である。しかし、アメリカで走っている日本車の殆どは、アメリカの工場、アメリカ人労働者が組み立てている。ひょっとすると日本車というよりもアメリカの車という意識の方が強いのかも知れない。日本車でも見慣れた車もあれば、一回り大きなアメリカ仕様の車もあり、アメリカの車文化に完全に溶け込んでいるように思えた。

*1953年 西部開拓期の開拓農民と牧畜業者との土地をめぐる対立を画いた映画「シェーン」の舞台となった。

第26回アカデミー賞撮影部門受賞

酒の地理的表示

日本を含めた世界には「銘酒」と言われる数々の酒がある。それらには「産地」と「品質」を保証する地理的表示、いわば国のお墨付きが表記されている。例えば、「ポルトガルの宝石」と称されるポルトワイン、英語表記ではポートワインは、ポルトガル北部、ドウロ川上流域アルト・ドウロ地区で栽培されたブドウを使用し、同地区で醸造されたワインで、アルト・ドウロ地区西部のポルト、英語読みポート港から出荷されるワインに限定されている。

日本でも 1995 年（H7）から地理的表示が始まり、清酒、ワイン、蒸留酒、その他の酒類の 4 種類、北海道から沖縄までの 14 地域に広がっている。山形ワインは、デラウェアやマスカットなど指定品種のブドウを原料にしたワインで、県内で醸造、ビン詰めしたものとされている。一方、山形産の日本酒は、国産の米、米麴を用い、県内で採水した水のみを使用、県内で醸造、容器詰めされたものと定められている。

日本を代表する酒造メーカー、サントリーの土台を築いたとされる「赤玉ポートワイン」が 1907 年に発売された。ところがポートワインは、元々ポルトガルで造られるワイン名で、ポルトガル政府から原産地名称保護制度抵触するのではとの抗議があり、1973 年にスイートワインに名称が変更された経緯がある。ポルトはリスボンに次ぐポルトガル第 2 の都市で、ドウロ川に面した同国屈指の港湾都市、観光都市であり、ポルトガル国名の由来となった古い街である。川岸から眺める街は、崖に近い急斜面に民家が張り付き重なり合い、急崖は川底まで続き、深い水深となり、港に好都合であった。日本を代表する港町長崎も横浜も同じ坂の街で知られる。ドウロ川を跨ぐ大きな二重構造の橋がドン・ルイス 1 世橋で、街が上下に大きく広がっていることから二重になったという。長さ 400m、水面からの高さが 100m で、上部は歩道とメトロ、下部は歩道と自動車を通る二重構造で美しいアーチが支えていた。右岸は旧市街地で教会や宮殿、左岸はポートワイン工場が並び、川面には昔ワインを運んだ底の浅いらべー口舟が浮んでいた。川岸から見上げると美しい橋は、橋上から眺めも 1 級品だった。この洗練された美しい橋の設計者は、エッフェル塔を設計したエッフェルの弟子によるものだという。

ハレの日に最もふさわしい酒と言えばシャンパンが思い浮かぶ。フランスを代表するスパークリングワインの一種で、シャンパーニュ地方で造られ、フランスワインの法律、生産地呼称管理法で定められた条件をすべて満たしたスパークリングワインのみをシャンパンと呼ぶことができる。ブドウはシャンパーニュ・アルデンヌ地方で栽培されたもののみを使用していること。ブドウは黒ブドウのピノ・ノワール、ムニエ、白ブドウのシャルドネなど 7 種類のみに限定。これらを使用して、シャンパーニュ方式と呼ばれる方法で醸造されたものである。なお、シャンパーニュ地方はケスタ、硬層と軟層の互層からなり、一方が緩傾斜となり、他方が急傾斜の崖になる地形で知られ、緩傾斜を利用したブドウ畑で知られている。

旅と言葉

ボリビアを旅した後、エクアドルでキト発着のローカル ツアー ” Highlights of Ecuador” に参加した。参加者はカナダ、アメリカ、イギリス、オーストラリア、スイス、日本の6カ国11名だった。英語に苦労したのも、スペイン語を理解できないのも日本人1人だった。でも、街の真ん中で放り出されてもそれほど困らなかつたし、アメリカ人と同室だったが言葉で引っ込み思案になることもなかつた。ツアーの何処で、誰に、どれ位迷惑をかけたか解らないが、結構巧く旅を続けられた気がする。勿論、ツアー前にリーダーやガイドさんに自分の英会話の程度を話し、集合時間などはミーティングの後に確認させてもらった。しかし、おしゃべりとなると少なからず淋しい思いをした。皆が大笑いしているのに笑えないのはまだしも、自分が話をするとう話が途切れるのが心苦しかつた。スペイン語の会話は駄目でも旅は続けられたが、英語も全く駄目だったら中南米に1人で旅発ったかは疑問である。旅先で「南米の旅は何回目か？」の質問が3、4回あつた。自分にとって中南米の旅は3回目で、5ヶ月間になっていた。これを聞いたガイドさんから「そんなに長いのなら、美しいスペイン語をもっと覚えなさい！」と言われた。日本語は、イタリア語とスペイン語のように同じものから枝分かれした言語と異なり全く別の言葉であることを言いたかつたが、英語がとっさに出てこず言い訳も出来なかつた。そして、スペイン語理解への努力不足は率直に認めざるを得なかつた。

外国で買い物をして金額を聴き取れなくとも書いてもらえば何とかなる。例えば、スペイン語で uno, dos, tres,・・・だが、1, 2, 3・・・と表示する。ところが、これがイスラム圏、アラビア語の国だと聞いても解らないし、書いてもらっても見慣れない数字で面食らってしまう。すぐに解るのは1（ワーヒドゥ）と9（ティサア）くらい。2（イスナーン）ゝ 3（サラース）ゝ は頭を傾けると何とか読める。ところが4（アルバア）は ε、5（ハムサ）は逆さまのハート、6（スイッタ）ゝ はデジタル数字の7、7（サブアア）はアルファベットのV、8（サマーニャ）は逆さΛで見慣れない記号にしか見えない。イランの通貨はリアル（rial）、補助単位はディナール（dinar）で1リアル＝100ディナールである。5ディナールの5が逆さハートに見えることからネックレスにしている人を見かけた。

スペイン語圏の旅で、言葉の不自由さから飲食代の支払いでいやな思いをしたことが2度3度とあるが、ブエノスアイレスでお会いした同じ年恰好の日本人の方には頭が下がる想いだった。現役の頃2年間イギリスで造船関係の仕事をされていた時からブエノスアイレスを訪れるのを夢見つけ、退職後2年間スペイン語を学び、憧れの旅に出てきたという。スペイン語を話せないままスペイン語圏の旅している自分に比べると段違いであった。数年前、奥さんをガンで亡くされ、約束の南米の旅を一緒出来ないのが心残りだという。娘さんはロンドンで生活おり、父親の血を引いているのかなと笑みを浮かべて居られた。若者たちとの語らいとは違う覚げる一時だった思い出である。

馬

家畜化される前の野生馬は他の動物同様狩猟の対象であり、重要な食料であった。馬は牛、羊や山羊と比べると消化能力が低く、食性も狭く食用としての飼育には向かない動物とされていた。ところが、馬より先に家畜化された牛、羊や山羊は、雪の下の草を食べる習性がなく、冬場に手のかかる家畜であった。ところが、馬は蹄で雪をかき分けて食べられることがわかり、一気に家畜化が進んだと言われている。馬の持つ走力、持久力の能力に加えて草食動物で社会性が強く、大人しく優しい動物ということもあり農耕馬、軍用馬、荷馬車馬、乗用馬と用途が広まっていった。その結果、騎馬民族や騎馬戦などの言葉が生まれ、第二次世界大戦までは馬が主役の世界となった。いわば人間社会に一大革命をもたらした動物である。

アジアに出現したモンゴル帝国は、ユーラシア大陸を横断する広大な国家であった。忍耐力の強いモンゴル馬と漢の武帝が探し求めていた大型で走力に優れた汗血馬に支えられた遊牧国家であった。ヨーロッパに目を向けると、白馬に跨るナポレオンの姿が思い浮かぶ。「ナポレオンここにあり」と周囲に意識させ、士気を高める効果を狙っていたことが伺える。ロシアでは南部草原を生活舞台にしていたコザックが、武装騎馬隊としてロシア辺境の警備に当たっていた。アメリカの西部開拓時代の馬は、馬泥棒が捕まると裁判にかけられることなくその場で縛り頸であったことから人間の命と同じ位大切にされていた。そして、馬 6~8 頭で引く幌馬車は数えきれない家族と夢を運んだ。西部開拓時代という「OK 牧場の決闘」、「シェーン」、「駅馬車」などの映画の影響が大き過ぎる。馬がいて、焚火があって、ならず者がいて、差別があって、ライフルがあった。たかだか 150 年前のことだが、大陸横断鉄道に取って代わられるまで続いた。そして、ウェスタンハットが今に受け継がれている。南米では馬を仕事にする gaucho がいた。野生の馬や牛を追って生計を立てていた人たちのことである。開拓魂を持ち、自然環境への強い順応力を持ち合わせ、先住民族との共存に長け、馬術に優れていた。今日のアルゼンチンやウルグアイの基幹産業である牧畜のパイオニアであった。そして今日でもエクアドル、ボリビアなどでは馬が人々を、荷物を運んでいる。日本に目を向けてみると、源平合戦に続く中世の戦いは騎馬戦であった。戦国武将にとって馬は一種のステータスシンボルになっていて、織田信長、徳川家康、伊達政宗などに馬にまつわる数々のエピソードを残している。ところで、食用として馬を見てみると、食する国とそうでない国とに 2 分される。アジアではモンゴル、日本、韓国、欧米ではフランスやイタリア、カナダでは馬肉文化が根付いている。その一方でイギリス、アメリカはじめアイルランド、オーストラリアなどでは食用にすることを避けている。なかでもアメリカは、西部開拓期の馬への思い入れからか馬を食用目的での屠殺を禁止している。ところが、馬に支えられている遊牧国家モンゴルでは、馬肉は冬の主食の一つともなっている。一方、日本では低カロリー、高蛋白質の優れた食肉として熊本はじめ、福島、長野を中心に馬刺しという日本独自の食文化が根付いている。

クリスマスプレゼントの始まり

クリスマスが近づくと、クリスマスソングと共に店頭にはポインセチアの赤、西洋ヒイラギの緑で飾られた贈り物が目に留まるようになる。クリスマスはキリストの降誕を祝う日であるが、実はイエス・キリストは「人間の救いの主」として神から贈られたギフトであり、その喜びを分かち合う日がクリスマスとされている。クリスマスにプレゼントを交換する習慣は、もともと聖ニコラウスの日と呼ばれていた12月6日の伝統行事であった。これをマルチン・ルターが1535年にクリスマスの日に行うことを提唱したことでクリスマスの習慣になったという。日本では明治時代に始まり、大正時代には定着したようである。

クリスマスと贈り物の関係には諸説あるようだが、新約聖書によると、イエス・キリストの「ユダヤの町ベツレヘムの馬小屋で降誕」を知った東方に住む三賢人が、星に導かれてエルサレムを訪れた時、それぞれ持参した異国の黄金（おうごん）、乳香（にゅうこう）、没薬（もつやく）の贈りものをしたのが始まりとされている。黄金は解るが、没薬は定かではないが何となく薬の一種と理解できる。ところが、乳香となると日本人には馴染みが薄く頭を悩ます。乳香はアラビア半島原産である。今日のイエメンを中心としたアラビア半島や紅海を挟んだエチオピアで産するカンラン科の樹木の樹脂で、香料の一種である。樹皮に切れ込みを入れると、しみ出る樹液が透明から乳白色に変わるので乳香と呼ぶようになったとされている。4,000年前から取引されている世界で最も古い交易品の一つであった。

紀元前10世紀から1,000年以上にわたって、アラビア半島に乳香で富をなしたシバ王国、現在のイエメンがあった。その後、繁栄を極め領土を拡大し今日のエジプト、エリトリア、エチオピアを含むようになった。シバの女王がソロモン王の知恵を求めてエルサレムに行った時、お土産は乳香であった。当時、乳香は「神々に捧げる香」として、エジプトではミイラの防腐剤として貴重なもので金よりも高価で取引されたという。乳香で富を築いたシバ王国は「幸福のアラビア」と呼ばれ、今もルブアルハリ沙漠に残るダムと宮殿遺跡から当時の繁栄ぶりを偲ぶことができる。王国は海洋、陸上に交易ルートを確立し、夏のモンスーンを利用してインドのスパイスや唐のシルクを入手していた。シバの女王は、この貴重な乳香を守るため翼の生えた大蛇を配置していたとも囁かれている。

乳香を加熱するとタール状になり、甘酸っぱいような心地よい香りが漂う。また、時間の経過とともに香りが増すと言われている。イエメンの首都サヌアのバザールに入ると何処からともなく高貴な香りが漂っていたのを思い出す。

なお、世界で最も高価な香水の一つ「アムアージュ」（Amouage）の主成分として乳香が重宝されていると聞いた。オマーンの国王直々の命によって生まれ、国王から国賓への贈答品として供されたことから「王のギフト」と称されるという。数千年続く伝統的な中東の香りに東洋と西洋の融合をイメージしているという。

南米大陸の「世界1」

南米大陸は新大陸に含まれているが、先住民族が住み、高度な文明社会を築いていた。今日、世界中で食べられている作物、ジャガイモとトウモロコシをはじめインゲン豆、トマト、トウガラシ、カボチャ、ピーナッツ、イチゴ、パイナップルなどを栽培し、農耕が生まれ、発達していた。

南米は歴史の古い、新大陸である。

南米は日本のほぼ裏側で最も遠い。更に季節は逆で、時差が12時間と精神的にも遠く感じられる。飛行時間は30時間で、これに待ちあわせ時間や乗り継ぎ時間加わる。ラテンアメリカ案内書や資料をめくっていると、世界で最も広い流域面積の川、世界で最も海拔高度の高い首都、世界で最も落差の大きい滝、世界で最も美しい山など、「世界1」が多く目につく。南米大陸は、島国日本の尺度が通用しない感動大陸である。思いつくままこれらをまとめてみた。

1. 世界で最も広い流域面積の河川は？

ヒント：流域面積65,000,000 km²で、オーストラリア大陸の面積とほぼ同じ

2. 世界で最も長い川は？

ヒント：ナイル川と競い合っており、7,000 kmに近い 北海道から沖縄までの往復より長い

3. 世界で最も幅広い河口を持つ河川名は？

ヒント：アマゾン川の河口は300 km～500 kmだが、中洲と水面が混じり合っている。水面だけで270 kmの河川 ウルグアイとアルゼンチンの国境 マゼランが太平洋への出口を探したとき川と気が付くまで1週間かかった ジェット機で横断するのに18分(900 km/h)かかる

4. 客船が航行する世界最高所の湖は？

ヒント：湖面の海拔高度3,899m ペルーとボリビアの国境で琵琶湖の12倍の面積 湖名は「灰色のピューマ」の意味

5. 世界で最も大きな塩の湖(原)は？

ヒント：東京都と同じ面積(120 km×100 km=12,000 km²) 塩の総量は20億t 自動車のリチウム世界の17%

6. 世界で最も落差の大きい滝は？

ヒント：ベネズエラにある落差979m 水は途中で飛沫となるため滝壺がない

7. 世界で最も規模の大きな滝は？

ヒント：300の滝が2.7 kmに分布 高さ64～82m ルーズベルト大統領夫人に「可哀そうな我がナイヤガよ」と言わしめた 1日で落下する水量はロンドンで使用する1年分の水

8. 世界で最も海拔高度の高い首都は？

ヒント：3,650m 憲制上は「スクレ」だが、実質的なボリビアの首都

9. 世界で最も高いところにある国際空港は？ ヒント：海拔高度 4,082m ボリビア

10. 世界で最も高いところにある都市は？

ヒント：人口 145,000 人（2001） 標高 4,070m ボリビア

11. 世界で最も高いところにある鉱山は？

ヒント：海拔高度 4,650m 鉱山として有名だったが掘りつくされて、今は細々とスズを産する ボリビア

12. 世界で最も美しいといわれている山は？ ヒント：ペルーアンデス 標高 5,947m

13. 世界で最も高い火山活動中の山は？ ヒント：標高 5,896m エクアドル

14. 世界で最も宇宙に近い山は？

ヒント：地球の中心から測定すると最も高い山 エクアドル 6,267m

15. 世界で最も乾燥している沙漠は？

ヒント：海岸沙漠で日中の気温が 50°C 1972~2009 年 37 年間で雨が降ったのは 6 回
チリ

16. 世界唯一赤道直下でペンギンが住む諸島は？

ヒント：大陸から 1,000 km 離れた火山島 エクアドル

17. 陸路のない世界最大の都市は？

ヒント：人口 48 万人（2021） 交通手段は船が飛行機のための陸の孤島 ペルー

18. 海のない国家で、世界で唯一海軍をもつ国は？ ヒント：訓練は大きな湖

19. 世界で最も美しいといわれている湖は？

ヒント：標高 1,560m カラフルな衣装の多くの先住民族が湖の周囲に住む グアテマラ

20. 淡水湖（ニカラガ湖）にある世界で最も大きな島は？

ヒント：面積 276 km² 人口 35,000 人 ニカラグア

<解答> 1.アマゾン川 2.アマゾン川 3.ラプラタ川 4.チチカカ湖 5.ウユニ塩湖 6.エンゼルフォール
7.イグアスの滝 8.ラパス 9.ル・アルト空港 10.ポトシ 11.ポトシ鉱山 12.ネバド・アル
パマヨ 13.コトパクス山 14.チンボラソ山 6267m 15.アタカマ沙漠 16.ガラパゴス諸島
17.イキトス 18.ボリビア（パラグアイは「水軍」） 19.アティトラン湖 20.オメテペ島

国民の祝日と年次有給休暇

1980年代の日本は、「働き蜂」、「企業戦士」と揶揄され、世界から「働き過ぎ」と批判された。1990年代になり週休2日制が作用され、ようやく週40時間労働が定着し、年間の休日が104日になった。

日本で大きな割合を占めている休日は、「国民の祝日」である。終戦直後の1948年「国民の祝日に関する法律」が制定された時点では、ヨーロッパ並みの9日であった。ところが、働き過ぎの批判を避けるため、有給休暇を取ることが難しい労働者に代わり、1966年には12日、1988年には13日、1989年14日、1995年15日、2016年からは16日と国が祝日を増やしてきた。諸外国の法定休日を見るとフランス、イタリア、シンガポールが11日、アメリカ10日、ドイツ、オーストラリアが9日、イギリス8日であるが、2024年の日本は16日で世界トップクラスである。さらに祝日が日曜と重なった時は、祝日を月曜に移動させる振替休日が5日加わり21日である。

これに年次有給休暇、心身の疲労回復しゆとりある生活を保障するための休暇が加わる。ところが、日本の年次有給休暇は20日で取得日数の平均は10日で、取得率は50%と世界最低クラスである。これに対して、フランス、ドイツ、スペインは30日、オーストラリアとイギリスは25日で共に取得率100%である。イタリア21日で75%、アメリカは14日で74%である。

日本の連休は年末年始、ゴールデンウィーク、夏季休暇とあるが、基本的には「国民の休日」に合わせるのが特徴である。みんなで平等に決まった時期に休むという感じが見て取れる。従って、日本の短い有給休暇はお盆や年末年始の帰省に費やされてしまう。ゴールデンウィークなどの休日に集中する旅行は「短期周遊型」となり、リラックスするどころか疲れが残るものになってしまう。ヨーロッパの国々は、「国民の休日」は日本の半分位の国が多い。しかし、長期休暇を取っているイメージが強い。この原因は年次有給休暇取得率の高さによるものである。最も労働時間の短いドイツと日本を比較すると、日本は33.3日、1ヶ月以上多く働いていることになる。

日本から最も遠い南米でも多くの日本人旅人と会した。殆どが20代、30代の若者であった。珍しくブエノスアイレスで還暦過ぎの独り旅の方と語り合う機会があった。現役時の2年間、イギリスで造船の仕事をしてながらアルゼンチンを旅することを夢見てきたという。退職後2年間スペイン語を学んで憧れの旅に出たという。また、24日間の休暇が取れたのでという40歳代の旅人とも会した。この2人以外は全員仕事を辞めての旅だった。

ブエノスアイレスと南米最南端のウスワイアにある日本人宿、上野山荘に居合わせた日本人はみんな若く、一癖も二癖もありそうな面構えだが、自分から苦勞を背負い、頑張りのきく若者たちだった。彼らが仕事を中断することなく、欧米並みに長期休暇で旅に出られる「旅文化」は、いつになったら日本に育つのだろうかと考え込んでしまった。

美人地理学

これは学説ではなく独断と偏見による話題提供で、世界、日本、山形県の3章からなっている。

<世界>

世界で多くの美人コンテストが開催されている。その中の一つ「ミス ユニバース コンテスト」があり、日本人が過去に2度優勝している。ところで、アジアの国で最も多く優勝しているのは何処の国だと思いますか。多分、フィリピンで4~5回優勝している。フィリピンは東南アジアの島国で、多くの中国人が住みついている。そして、16世紀から第二次世界大戦までの間にスペインとアメリカの植民地となった。その結果、多くの人種、民族の混血が進んだ。最近、ラテンアメリカの国々、特にコロンビアとベネズエラがコンテストでしばしば優勝しているが、これらの国々はフィリピンと同様混血が進んでいる。

<日本>

日本には昔から天皇制度がある。天皇たちは皇族の間で結婚し、皇室の血統を守ってきた。しかし、前の天皇は皇太子時代に一般市民、粉屋の娘さんと結婚した。また今日の浩宮天皇もまた一般市民の外交官と結婚した。これは、人類にとって近親結婚は好ましくないことを物語っている。昔から「東男に、京女」と言われてきた。東は関東圏あるいは江戸っ子を意味し「男の中の男」、そして京女は「女の中の女」とされてきた。京女の顔はひな人形に見られるうりざね型で、日本における美人の代表とされてきた。美人の里として京都をはじめ東は金沢（石川県）、新潟、秋田、西に向かって出雲（島根県）、博多（福岡県）が知られている。庄内と津軽もまた美人の里で有名である。これらの美人の里には幾つかの共通点が見られる。1つは日本海側であること。2つ目はおおむね1県置きであること。3つ目は織物の産地が多いことである。その理由は、冬季間の湿度が女性の肌を守り、糸を紡ぐのに好都合であった。そして、1県置きは江戸時代の西回り航路で1日の航行距離の港町であったことに由来している。

<山形県>

山形県の庄内地方は美人の里として全国的に知られている。庄内の中でも鶴岡、羽黒（手向）、小国が美人の里とされている。鶴岡は庄内藩酒井家の城下町で、徳川家とゆかりある家系で徳川四天王筆頭であったことから江戸や京都をとの結びつきが強かった。羽黒は全国に知られた出羽三山信仰の中心で門前町として栄えた。羽黒女は情熱的として庄内では知られている。小国は、今日では温泉温泉背後の山間部の小集落だが、江戸時代には標高555mの日本国東側堀切峠を通る参勤交代の宿場町として栄えたところである。庄内の他の美人の里としては、大石田と左沢、寒河江、高松や間沢などが知られている。大石田と左沢は河港として紅花を介して京都との結びつきが強く、寒河江や高松などは湯殿山巡礼路沿いで関東圏との結びつきが密であった。また、内陸には「寒河江女に、谷地男」、庄内には「三瀬男に、由良女」などの言い伝えがある。

5. 70歳からのスキーと中秋の名月（P.55～P.67）

ページをクリックするとそのページに移動します

○ 70歳からのスキー：P.56

○ 高校の同級会：P.57

○ 夏の思い出：P.58

○ 俺たちの山・鳥海山：P.59

○ 北海道スキーレポート：P.60

○ 東京の夏：P.61

○ 花火の後：P.62

○ 気になる言葉使い：P.63

○ 中途半端な数字：P.64

○ 中秋の名月：P.65

○ 山形の「新四国八十八ヶ所霊場」：P.66

○ 日本山岳会年次晩餐会と天皇陛下：P.67

70 歳からのスキー

2023 年スキーシーズン前に、前年度から探し求めていたスキー板、Genuine Guide Gear の頭文字をとった G3（ジースリー）を買い求めた。自分の年齢に相応しく「爺さん」と呼んでいる。口の悪い仲間からは、「何歳まで滑るつもりだ？」の声も聞こえてきた。正直なところそこまでは考えることもなく、単にこの板が欲しい一心で求めたものである。

日本山岳会アルパインスキークラブ会員で千葉在住の K.K さんとは同じ年ということもあり懇意にさせてもらっている。ほぼ毎日テニスで汗を流し、テニス休みの日にはジムで身体を動かしているスーパー爺さんである。70 歳になった時の言葉のやり取りを思い出す。「70 になったが、何歳まで滑れるかな?!」、「70 歳の前半で南米最高峰に登った会員もいるし、アルプスオートルートなど厳しいルートの山スキーをされている人たちが結構居られるが、75 歳になると極端に少なくなる。元気な 75 歳を目標に滑ろう！」ということになった。75 歳になった時、「差当り 80 歳を目指して滑ろう！」となり、東北、北海道の山々で山スキーに興じた。80 歳の大台に乗った時「当面、85 歳を目指そう！」となり、83 歳で早春の月山登頂と山スキーと遊ぶことができた。85 歳になってからはまだお会いしていないが、「85 歳になってしまったね」から始まって 90 歳でのスキーが話題になることが必至である。幸いお互いに元気で、スキーへのモチベーションは衰えていない。これからは 1 年、1 年を滑っていたら 90 歳になっていた、となればこの上ない幸せである。

高校の山岳部で始めたスキーだが、怪我もなく 70 年間も続けてこられたことは幸せの一語に尽きる。高齢になっても続けられるスポーツとなるとスキーをはじめランニングや剣道、ゴルフなどが思い浮かぶ。どれも人間の日常生活の中から自然発生的に生まれ、素朴な動きが基本になっている共通点がある。ここ数年、年頭に「怪我なく、スムーズに歳を重ねること」をモットーにしている。ところが、今年（2024）1 月末に思いもよらなかった肺炎になった。同じ病院で 10 年程前から左手中指第二関節にできていた血液溜、腫瘍へ変化する心配もあるというので取り除いてもらった。こんな調子で、日本山岳会北海道支部のニセコ五色温泉自炊棟を貸し切ったの粉雪山スキーへの参加を辞退せざるを得なかった。また、夏に支部行事でお世話になった上高地の山岳研究所の管理人さんを冬の蔵王にお招きしての催しも取止めざるを得なかった。2024 年のスキーシーズンは、20 余日スキーを履いたが消化不良のまま終えた。何となく視力の衰えが気になっていたのも同じ病院の眼科に足を運んだら、黄斑膜と診断された。両目で見える限り日常生活には支障なかったが、左片目だけで見る像が歪んで見えた。このままでは視力の低下が心配されるという。残りの人生をより快適に過ごすためと思い手術、2 週間の入院生活を送った。肺炎以来体のタガが緩んだように病院通いが続いた。確実に老化が進んでいる証である。

来シーズンに向けスキーをチューンナップに初めて出した。幸い同じ志の山仲間がいる。大空の下で、「また滑れた！」と喜び合える日々を夢見ながら冬到来を待ちわびて居る。

高校の同級会

我われ学年の同窓会名は「1行会」である。入試の時、応募者が定員を5,6名オーバーだった。校長の英断で受験生全員入学となった。当時、合格者の氏名が新聞紙上に載るのだが、「全員合格」の一行であったことからの命名である。入学後は、全員合格は学校創立以来初めてで、出来の悪い学年と言われ続けた3年間だった。

60歳以降、高校の同級会を毎年開いてきた。会場は、特別記念の年を除いては山形市内の老舗料亭と決まっていた。75歳の同級会ではお世話になった恩師の方々が全員他界されたことを知った。先生方はみんな個性的で想い出深く、全員あだ名で呼び合っていた。例えば、校長はタンポポ、国語の先生は板塀と伊達男、数学は文ちゃんと隊長、英語は雪ちゃんとゴトちゃん。雪ちゃんは開業医の奥さんの名前で、ゴトちゃんはいつも蝶ネクタイ姿であった。化学は化け猫、生物は鳩ポップのポップと三ちゃん、日本史はペリカンとソウゲン、世界史は空回り、体育はうどん粉などなどであった。それに超有名な英語のマツキ先生がいた。直接授業は受けなかったが、放課後の清掃の時間になると塵取りと箒を持って校内を廻り、時折大きな声で「掃除をしろ!!」とはっぱをかけていた。その足で向かうのは男子生徒のトイレであった。77歳「喜寿」を祝ったが、足元に気を付けなければならぬ年を自覚して、この会を境に夕食会から昼食会へと変わった。卒業直後から代表幹事を引き受けてくれていた我らの親分が健康を損ね、宴会はドクターストップとなってしまった。時を同じくして、いつもお世話になっていた料亭が閉館になったこともあり、80歳の会が最後になった。今年（2023）の1月、同級生から電話があり、ミニ同級会の誘いであった。親分の居ない同級会は駄目だが、仲間同士の小規模なら問題ないだろうということだった。高校の時、天童駅から通学していた同期が12名、そのうち4名が近くに住んでいるという。今年（2023）の2月、サッカー部、美術部、山岳部だった3名が寒河江のホテルに集いミニ同級会を開いた。高校卒業後の生い立ち、恩師やマドンナの話題で盛り上がった。昨日の出来事のように語り合ったが、思えば全て70年前の出来事である。学年に13名の女子がいた。マドンナは天童から通学していた。今はファミリーネームが変わり、鶴岡市に住んでいる。5年ほど前、鶴岡のスーパーマーケットで会したことがあった。笑みを浮かべて近づき言葉を交わしたが、彼女曰く「太ったと言いたのだろうか?!」と言いながら笑った。2回目のミニ同級会は8月の蔵王だった。3回は紅葉の頃にウナギを食する予定であったが、係りの者が前歯を欠損して治療中ということで延期になり、ようやく12月に入って実施した。ウナギを食する会のことを入院中の山形在住の同級生に話したら、「俺も行く!」と元気に叫んでいたが、9月に亡くなり出席は叶わなかった。85歳という年齢は、何が起きても不思議でない、なんでも起こり得る年齢であることを自覚した。

2024年度の1回目は最上川が見える所という希望に沿って河北町で実施した。次回もまた最上川沿いの大石田か楯岡を予定している。

夏の思い出

今年（2024）の夏は異常な暑さだった。8月末、日本山岳会山形支部行事で長野県の上高地に行ってきた。山形から約430km、車で8時間ほどだが、桃源郷に行くには当然の距離と時間であった。上高地は岐阜県、富山県と長野県に跨る飛騨山脈、通称北アルプスの南部、穂高連峰の長野県側で梓川上流域にある。壮観な山、静寂な池、清流の川に恵まれ、国の文化財の指定を受けている。

上高地の朝晩は肌寒かった。学生の頃には見かけることのなかったサルが至る所に居た。今回もお世話になったのは日本山岳会山岳研究所、通称「山研」で、河童橋の直ぐ上流でカラマツなど原生林の中に建っている。登山指導や自然保護活動をはじめとする研究や講習会、会員の宿泊を目的としている施設である。

恒例となった日本山岳会山形支部行事「それぞれの上高地」は、参加者が登りたい、行きたいところを選んで、仲間を募り行動する。今年は霞沢岳班、徳本峠班、槍見台班に分かれての行動になった。5:00、徳本峠・霞沢岳組出発。徳本峠組は7:30、30分遅れで槍見台散策組が山研を後にした。槍見台班5名のコースは、山研（1,500m）3km⇒明神（1,530m）3.7km⇒徳澤（1,560m）3.5km⇒横尾（1,615m）標高差195m⇒槍見台（1,810m）往復である。歩き出しは穂高連峰や明神岳の山々は見えないが、原生林の森林浴で始まった。途中に散在する岳沢湿原などではカモ類が餌を啄^{つば}んでいた。明神橋を渡って梓川左岸に移ると、河童橋付近では重なり合っていた明神岳（2,931m）が、横に広がりそれぞれの岩峰が競い合うように聳えていた。穂高の前衛峰的な存在だが空に向かう尖峰群は、裾を流れる梓川とは対照的な眺めである。60年ほど前、蝶ヶ岳で北アルプスの眺望を楽しんだ後、真っ先に登って同期の友を偲びぼろぼろと涙を流した山である。

徳澤に向かって歩き出すとやや右手前方の尾根越しに端正な三角形の常念岳（2,857m）が見え、左側には前穂高岳の全容が次第に現れてきた。南に伸びる尾根は先ほどの明神岳に、そして北に走る尾根は北尾根となって屏風岩まで伸びている。又白谷に面する東壁は、井上靖氏の小説「氷壁」の舞台となった岩場である。50年ほど前、大学山岳部で山に明け暮れていた教え子2人と3人で、天空のキャンプサイト奥又白池と涸沢をベースにして穂高の岩場で遊んだことがあった。今、思い出しても楽しい岩登りの日々を過ごした。

明神から横尾まで間に大きなザックを背負った多くの若者たちと行き交った。集団と擦れ違う時に漂う汗の臭いは、彼らの長い山行を物語っていた。横尾山荘前で一息入れていると、前穂北尾根末端の岩壁、屏風岩がそそり立っていた。横尾は槍ヶ岳から流れて来る槍沢と横尾本谷が合流し梓川となる地点である。

初めて上高地に来た時、徳澤から槍穂の連山を展望するために選んだのが蝶ヶ岳だった。今回は200mほど登った「槍見台」が目標である。時折霧が流れる槍ヶ岳が天を衝くかの如く聳えていた。左手には山腹をえぐり取られた北穂高岳のカーブも眺めることができた。

俺たちの山・鳥海山

山の字をそのまま描いたような岩木山、別名津軽富士は津軽人の心の真ん中にある山である。鹿児島県のシンボル桜島は1年中噴火を繰り返えし、山麓住民は火山灰で苦しめられている。しかし、県民が桜島を語る時は、何故かいつも笑顔になる。日本人は、心の奥深くにふるさとの山を持っている。山形と秋田県境に位置する鳥海山*は、庄内平野から見ると裾野を海に伸ばした優雅な姿で見る人を魅了する。また、鳥海山裾野の遊佐町から間近に見ると、圧倒的な大きさに迫ってくる。昔は火を噴く山として畏れられ信仰の対象となった。その一方で、山から流れ出る水は水田を潤し母なる山として昔から農民に溶け込んできた。5月に入ると鳥海山南面に残雪に囲まれた「種まき爺さん」が現れる。腰を曲げて種をまく老人の姿で、北庄内に春を告げ、田植え時を知らせてくれる。文殊岳南西面には「花」の雪形が現れる頃になると、色とりどりの高山植物が咲き誇る。

庄内地方の子どもたちは、朝な夕なに北の方角に鳥海山を見て育つ。修学旅行で庄内を離れた中高生に、「北はどっち？」と聞くと、「鳥海山が見えないので解らない」の答えが返ってくる。北朝鮮による拉致の疑いもあるが、遊佐町の若者が行方不明になった。一日も早く帰ってくることを願う母親が、「鳥海山も待っているよ！」と呼び掛けていた。鳥海山は、北庄内の子どもから大人まで心の奥深くまで沁み込んでいる特別な存在の山である。

四季を通して鳥海山に登り続けている飽海の人々にとって、山イコール鳥海山であるかの如く通い続ける。鳥海山は新旧火山の入り混じった複雑な地形、厳しい季節風によってもたらされる膨大な雪、植物の多様性は江戸時代から中央政府から注目されてきた。登るたびに違った表情を見せてくれる山で飽きることはない奥深さがある。その一方で、修験道の発達に伴い庄内藩と矢島藩による山上の奉仕権から嶺境争いがあった。幕府の裁定で決着するという人間臭い出来事もあて、今日の複雑な県境となって現れている。

後に砂越に転居したが、酒田市に伝説的な猛者がいた。20～83歳までの間に2,316回山に登った。最も情熱を傾けたのが鳥海山と出羽丘陵で1,010回を数えた。しかも、山行毎に場所、標高、天候、気圧、同行者、食事などなどを克明に書き記していた。これらの貴重な記録を酒田の山仲間が「池田昭二鳥海山山行記録編集委員会」を組織し、詳細で膨大な記録を「池田昭二 鳥海山山行記録1000」**として克明にまとめ上げた。編集者の言葉として「常に新しいルートや登り方に挑み、周囲に大きな影響を与えた」と述べられている。

鳥海山の山中に建つ酒田市営の山小屋で一緒になった酒田の山仲間から「鶴岡には月山があるのに、何故遠い鳥海にわざわざ来るのか？」の疑問を投げかけられたことがあった。山イコール鳥海山的な彼らにとっては極自然で、素朴な疑問である。

* 1801年(享和元)の噴火でできた新山が最高峰、1974年(昭49)にも火山活動があった活火山

** 池田 昭二 著 鳥海山山行記録1000(CDブック) 無明舎出版 2018/5

北海道山スキーレポート

日本山岳会元アルパインスキークラブ員で北海道通のSS氏と一緒に1月下旬から2月にかけて、ここ10年間、北海道で山スキーを楽しんでいる。近年のメインはニセコ五色温泉自炊棟借り切って、日本山岳会北海道支部の「ニセコ粉雪合宿」、15名弱の愉快的集まりへの合流である。北海道のメンバーと一緒にとなると、2~3日間深雪の足慣らしが必修となる。ニセコスキー場のモイワ、グラン・ヒルフ、アンヌプリスキー場などで過ごしてからの合流となる。五色温泉自炊棟に入ってから、天候と相談しながらイワオヌプリ(1,162m)、シャクナゲ岳(1,074m)、ピーナスの丘(1,000m)、チセヌプリ(1,034m)、アンヌプリ(1,308m)などから山を選択し山スキーを満喫する。いつも40~50cmの深雪だが、雪は軽くスキーは快適である。

賑やかな4日間は、北海道ならではのご馳走、新鮮な海鮮、ソースにこったジンギスカン、芋餅、ジビエ料理などなどに溢れる。北海道支部会員の女性群のなかに新庄出身の方も居られ親しく声を掛けてもらっている。また、北海道支部の重鎮で、本部晩餐会では天皇のお世話役のHT氏とも巡り合えた。奥方は日本山岳会11代会長を務められ、1925年榎有恒氏ら共にカナディアンロックーアルバータ峰初登頂、日本のヒマラヤ登山への門戸を開かれた三田幸夫氏の娘さんである。北海道支部合宿終了後はアンヌプリ(1,308m)から北壁を滑ってワイススキー場へ、ニセコ西側の目国内岳(1,220m)やワイスホルン(1,645m)、旭川・幌加内方面の冬路山(625m)や東古丹別山(615m)、富良野・十勝方面の十勝岳(2,077m)や三段山(1,748m)、日勝峠周辺、羊蹄山などに脚を伸ばして北海道の雪を楽しんできた。

北海道、特にニセコは外国人に溢れている。昼食時などは、一瞬ながらも外国のスキー場と間違える程である。彼らの多くは、北海道の雪に魅了されてやってくる。雪の質感だけでなく、雪の深さ、豊かさに“Japow”の新語が誕生した。滑っていると股間から雪が舞い上がってくる。雪がより深くなるとオーバーヘッド状態で全身を覆ってしまう。チセヌプリなど森林限界を超えたアルパインエリアのオープンバーンの魅力もさることながら、森の中の極上の雪を滑るツリーライディングもまた刺激的である。十勝岳で遊んだ時、風で少し締まった雪からフワフワ雪を滑る時ドイツ人たちと一緒に滑った。滑り終えた時、思わずハイタッチしてしまった。彼らの口からは”Is this real?”、“No kidding!”の言葉が漏れた。

大荒れの天候で飛行機が飛ばず1日遅れの行き帰りもあった。5年程前、全国的な雪不足で、北海道で最も寒いとされる和寒のスキー場でも地肌が出ていた。岩内からの雷電山(1,211m)山スキーはヤブで苦しんだ。また、JR千歳駅内のホテルに泊まった年は、コロナ禍による旅行支援の恩恵もあった。ルームチャージ8,000円だったが、5,000円の千歳市割引で支払いは3,000円で済んだが、3,000円の新千歳空港クーポン券が付いた。2年前からは大学山岳部OBの元気な若者たちが加わり一段と賑やかになった。体力的に心配な年齢になったが、何とも楽しみな集まりである。

東京の夏

今年（2023）はことのほか暑く、最高気温が 35℃以上の猛暑日が東京で過去最多 22 日、夜に 25℃以下にならない熱帯夜が 57 日を記録し、過去 126 年間で最も暑い夏となった。国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰時代に入った」と述べていた（7/27）。タイから帰国した商社マンが、東京の 8 月は世界中で最も不快なところではないかという。タイだって暑いけど、気温と湿度が共に高いのは東京だけだという。東京で暮らす外国人の 82%が、東京の夏は想像以上に暑いと答えている。船舶が南北回帰線の間を航行する期間は、乗組員に「暑さ手当」が支給される。陸地も同じで熱帯雨林気候のシンガポール勤務のアメリカ人は、「暑さ手当」を得ていた。ところが、東京勤務になって、この手当はカットされてしまった。東京の夏の暑さが余りにも酷いので「暑さ手当」を要求したが、東京は温帯の理由から認められなかったという。シンガポールは赤道直下で常夏の国である。朝夕の平均気温は 25℃位だが、日中は平均 30℃であるが、熱帯夜は滅多に現れないという。雨季と乾季のみで四季はない。台風は来ない。東京は 2000 年から昨年までの猛暑日は年平均 10 日、熱帯夜は 24 日で、明らかに熱帯のシンガポールより暑い。確かに熱帯で東京を凌ぐ暑いところはある。例えば、インドのチェンナイ、旧マドラスは、熱帯サバナ気候、最も暑いのは 5 月で、最高気温は 45.0℃にもなる。最高気温の月平均気温は 38.8℃、最低気温の平均気温は 27.8℃である。体温以上の気温の日が続き、連日熱帯夜である。こんな日は食欲がなくなるので、とびっきり辛いカレーが欲しくなるのだという。

世界で最も暑い国は、エチオピアの外港になっている隣国ジブチだという。紅海の南東部、マンダブ海峡に面している。冬でも 30℃以下になることは滅多にないという。真夏ともなれば 50℃を越えるのは当たり前で、最高気温は信じがたい 71.5℃を記録（非公式 03/7）したという。昼間は蚊も飛ばず、飛んでいる鳥は失神したという。なお、世界の公認最高気温はアメリカカリフォルニア州のデスバレー 56.7℃（1913）、日本の最高気温は埼玉県熊谷で 41.1℃（'18/7）である。吹く風はムツとする熱風で呼吸するのも躊躇うイエメンのモカの人々は、朝 7 時頃に作業が始まり、最も暑くなる前の 13 時頃には終わる。昼食は自宅できり、その後はシiesta、昼食後の昼寝に入る。兎に角、出歩かず室内や日蔭で転寝しながらのんびり過ごして体力の消耗を防ぐ。16 時から仕事開始で 18 時に終わる。これからが人々は活気を取り戻す時間である。涼しくなる夜こそがパテオ、中庭に家族が集い茶を飲みながら語り合う。友人と街に繰りだして語り合うのである。シリアの隊商都市パルミラで、遺跡の中にあつた個人経営の小さなホテルで、宿泊客のドイツ人、アメリカ人と共に夜毎家族の語り合いに一緒させてもらった。1 日の最初のお祈りが日の出前だというのに深夜近くまで続いた。イスラム暦は純粋な太陰暦で月の運行を基準にしているので、1 日の始まりは日の入りである。月は朔（新月）⇒上弦⇒望（満月）⇒下弦⇒朔 の周期で約 29.5 日である。太陽暦より 1 年が 11 日ほど短いので、毎年 11 日ずつずれていくことになる。

花火の後

2023 年も山形で、鶴岡で、酒田で、大石田でと花火大会が行われた。日本人は花火好きで、年間全国 900 ヲ所以上で花火大会が行われるという。花火の「花」には、サクラに思いを寄せる日本人の心情を映しているのかも知れない。花火の原型となったのは狼煙と言われている。中国で薬を作っている時、偶然に火薬が発明され、爆竹の大きな音が魔除けとして使用されていた。その後、火薬はイスラム諸国を経由してヨーロッパに伝わった。見て楽しむ花火の始まりは、14 世紀にイタリアでキリスト教の祭りとされている。日本では江戸時代まで遡る。1733 年（享保 18）、飢饉や疫病の流行で多数の死者が出た。その慰霊や疫病退散のために行われたのが水神祭で、ここで打ち上げられたのが始まりとされている。一説によると花火には死者の魂を導くお盆の迎え火、送り火の一種とも言われている。外国の花火は、年末のカウントダウンやアメリカ独立記念日の 7/8、カナダデーの 7/1 など、何かのお祝いに伴って打ち上げられる印象が強い。従って、激しい音や照明などの迫力がメインになっている。一方、日本の花火は世界に比べると独特で、その背景には日本人特有の繊細さと美意識などがあるという。日本の花火は、大きく球状に広がり、花の芯のように二重三重の円を描き、空中で光る星の色が途中で変わるのが大きな特徴だという。当然、作り方に大きな違いが見られる。外国では円筒形で 1 種類の火薬を機械でプレスして作る。これに対して日本は球体で、中心に割火薬を入れ、周囲にいろいろな火薬を詰めるので、四方八方に球形に飛ばして花を咲かせる職人技であるという。日本ではいつでも、どこでも簡単に花火が手に入り、気軽に楽しむことができる。ところが、アメリカの多くの州では火災予防の観点から公園やビーチ、個人の庭でも州法で禁止されているという。また、ある州では一般向け花火の製造も販売も許可制だという。花火事情は国により異なる。

ところで、鶴岡の赤川花火大会は赤川に架かる 2 つの橋、羽黒橋と三川橋の間で行われる。右岸が打ち上げ場所で、左岸が観覧席となる。約 700m の範囲で 90 分間に 1 万数千発の大規模なものである。華やかさに加えて間近で聞く音は天を震わすような大きな音で、お腹に響くほど迫力がある。赤ん坊は花火の音に驚き畏れて母親にしがみ付く。人間より聴力や臭覚に優れている猫や犬は人間以上に大きな音は苦手のようなのである。恐怖に駆られて震える、吠える、物陰に隠れるなどの行為が見られる。日常的にはあり得ない大きな音やピカッと光るものは、本能的に身の危険を感じるのだろう。

二つの橋の間を一周するとおよそ 4 km で、普段からジョギングコースとして利用していた。花火の翌日に走っていると、堤防上には花火の細かい玉皮、火薬を包む紙が沢山散らばっていた。打ち上げ場所直近のアスファルト道路には火薬による焼け跡が無数に残っていた。また、打ち上げ音と振動に驚き恐れたのか、地上に出てきた無数のミミズが無残な姿を晒しており、上空には多くのカラスが舞っていた。

気になる言葉使い

日本は世界でも多雨地帯であるモンスーンアジアの東端に位置している。世界の平均年間降水量が880mmに対して、日本は1,718mmでほぼ2倍である。東京の月別降水量を見ると梅雨の6月と台風シーズンの9～10月の降水量が多く、雨期が2回あるのも特徴の一つである。

日本、中国、フィリピンなど東アジアの台風は、インドやバングラデッシュなど南アジアではサイクロン、カリブ海やメキシコ湾ではハリケーン、南半球のオーストラリアやマダガスカルでは南アジア同様サイクロンと呼んでいる。

熱帯低気圧が発達し、風速17.2m/sec.以上になると台風で、初めは北東貿易風に乗り西に進み、日本付近で偏西風に乗り変えて北東に進むのが一般的である。日本は毎年台風の猛威にさらされる。記憶に残るものとして「洞爺丸台風」や「伊勢湾台風」などいくつかある。台風の移動をテレビやラジオで伝える時、「北上する」、「南下する」の言葉を良く耳にする。多分、気象庁の「気圧系の発達、移動に関する用語」に基づいているものと思われる。しかし、地球は球体に近い形をしているので上も下も無い。「東に進む」や「西に移動」と同じように「北に進む」、「南に移動する」で何か不都合なことがあるのだろうか。

世界で最初に世界地図が求められたのは航海用の海図であった。大航海時代の16世紀になるといつでもどこでも北を指してくれる動かない星、北極星を航海で基準にした。これが元になって、地図は基本的に北を上にして描かれるようになった。これが関係して、北が上、南は下、東が右、西は左の呼び方だと思われる。「北上」、「南下」の東西バージョンはとなると、中国に「東下(トウカ)」、「西征(セイト)」があった。東下は都の長安から東京(トウキ)、洛陽に行くことを意味し、西に行くことを西征と言い都から西の未開の地に行くことを意味していた。勿論、今日では通用しない。似たような言葉に「東奔西走」があるが、方角にはあまり関係なく「あちこち」の意味のようである。「南船北馬」も南北は一つの例で、絶えず旅をしている、各地を忙しく旅することで東奔西走と同じような意味に使用されている。

台風が北上する、街道を南下する、オアシスを目指して西進する、探検隊は一路東進した、PCの英語に翻訳すると、going south、headed west、move northなどで、北上や南下の上、下は使われていないが、複数のALTに尋ねたら気象予報官の言葉をブツブツと真似しながら北上、南下と表現すると言っていた。なお、南半球を旅していると、南を上にした地図を観光地のカフェやお土産店などでたまに見かけるが、基本的には北を上にしてある。ところが、古代エジプトの地図は南が上だったとか。というのもナイル川が北に向かって流れて来ることから南を上にしていたとされている。また、日本人が思い浮かべる世界地図は太平洋が中心であるが、欧米人の地図は大西洋中心である。地球は球体なので地球の何処で切って地図にするかは、その時、地域により異なってくる。但し、東や西を上にした地図にはお目にかかったことは無い。

中途半端な数字

3.141592……、42.195 km、1,067 mmと 1,435 mm、24.3900m などなど私たちの身边には中途半端な数字が意外と多い。円周率の 3.14……は、自然の摂理で納得である。42.195 kmは、陸上競技 100m と並ぶ花形競技であるマラソンの距離である。紀元前 490 年、ギリシャ軍とペルシャ軍との戦いでギリシャ軍が勝利した。その報告のためマラトンからアテナイまでおよそ 40 km を走ったことに由来してマラソン競技が生まれたとされている。ところが、1908 年第 4 回オリンピックロンドン大会の時、イギリスの王女が「スタートは城の窓から見える宮殿の庭、ゴールは競技場のボックス席の前にして欲しい」と、とんでもないことを言いだした。この距離が 42.195 km であった。1 人の王女わがままが中途半端な距離として後々の世に残ってしまった。

1,067 mm と 1,435 mm は、日本の鉄道の軌道である。鉄道発祥の地はイギリスでフィート・インチの国ある。日本の単位であるメートルに換算したことに由来している。1,067 mm は 3 フィート 6 インチで世界標準軌道 1,435 mm より狭く狭軌と呼び、日本鉄道の基本的な軌道になった。その後、人、荷物の急増に加えスピードアップが求められるようになり、これに対処して 1,435 mm の世界基準にしたのが新幹線である。ところが、1,435 mm は 4 フィートと、8 と 1/2 インチである。8 インチは 2/3 フィートだが 1/2 インチは何とも中途半端である。その理由としていろいろ述べられているがどれが真実かは不明である。どうも鉄道誕生には、何か秘密めいたものが隠されているように思えてくる。

ところで、シベリア鉄道はウラジオストクとモスクワを結ぶ全長 7,416 km の世界最長の鉄道である。その後、重要性の増加に伴い第 2 シベリア鉄道、日本ではバム鉄道の名で呼ばれているバイカル・アムール鉄道が誕生している。これらとは別にペキンからウランバートル経由してウラン ウデでシベリア鉄道に合流するモンゴル縦貫鉄道、通称「裏シベリア鉄道」がある。ところが、中国の鉄道は国際標準軌道の 1,435 mm だが、モンゴルは当時のソ連の指導の下で鉄道建設を進められたのでヨーロッパと同じ 1,520 mm となっている。その裏には中ソ対立が関係し、国防上の策とも聞いた。軌道の差 89 mm はレールの幅が広いというか太いのでスピードを出さない限り同じ車両で走られるとのことだったが、中国側国境駅エレンホトで車両が乗っかっている台車交換を見ることができた。乗客はそのまま車両を持ち上げ、交換する台車でこれまでの台車を弾き飛ばす少々粗っぽい方法で交換していた。インターネットによると 2022 年から中国が 1,520 mm を採用したので台車交換は不要になったことを伝えていた。これとは別に中国東北部経由でペキンと結ぶ東清鉄道も広義のシベリア鉄道に入れている。

余談になるが、インドの高級紅茶ダージリンで知られるヒマラヤ山麓のダージリンから紅茶を運ぶために敷設されたダージリン ヒマラヤン レールウェー、通称ダージリン トイ トレインは、超軌道の 610 mm で、まるで「機関車トーマス」のように可愛いものだった。

中秋の名月

中秋とは秋の真ん中を意味する。旧暦では7、8、9月を秋とみなし、8月15日が丁度秋の真ん中に当たることから中秋と呼ぶようになったという。この頃、日本は大陸の乾燥した冷気に覆われ月が美しく見える頃である。

月見はもともと中国の習慣で、日本には平安時代に入ってきたとされている。初めは貴族たちが酒を酌み交わし、詩歌を詠んだりした風雅なものであった。江戸時代に入ると農民の収穫祭と結びつき、お供え物をして感謝や祈りを捧げるようになり一般化したといわれている。2024年の中秋の名月は9月17日、満月は18日であった。日本では「月」や「うさぎ」などが童謡に歌われ、「宵待ち月」や「立待ち月」などロマンチックなイメージである。ところが、英語圏での満月は一時的に不眠症を患うとか、オオカミに変身するなど不吉なイメージが強い。アメリカの秋の一大イベントであるハロウィーンでは、月のイラストは悪魔やお化けと一緒に描かれる場合が多い。

ところで、世界の人々は同じ月面を見ているが、月の模様は国によって様々である。日本では餅つきしているウサギだが、中国は薬草を挽いているウサギになる。モンゴルはイヌ、インドはワニ、アラビアでは吠えるライオン、中南米はロバ、ドイツでは薪を担ぐ男などなどに見えるという。月の模様に限らず星座でも余程想像力を膨らませ、イマジネーションの世界で遊ばない限りウサギも、星座のくま、ひつじ、かに、さそりも思い浮かんでこない。

新月の日から約15日目に満月となる夜を「十五夜」と呼び、中秋の名月として団子とすすきを供えるのが一般的である。団子は月と同じ丸く縁起の良いものとされている。米の収穫ができたことへの感謝と来年の豊作を願う。これは当時、月が信仰の対象で月神である月読神が農耕の神でもあったことに基づいている。団子の数は十五夜にちなんで15個が一般的であるが、1年が12カ月に因んで12個などの地域差が見られる。日本には昔から神人共食の習慣があり、神へのお供え物をいただくことで月の力を分けてもらい健康と幸せを願うのである。同じお供え物のすすきは、作物や子孫繁栄を見守る月の神の化身とされている。茎の内部が空洞になっている所が月の神の宿り場とされている。また、すすきの鋭い切り口は魔除けになるとの言い伝えがあり、悪霊や災いなどから収穫物を守ると考えられている。本数は1、3、5本と奇数を飾るとされている。本来ならば、収穫の感謝という意味から稲穂をお供えしたいところだが稲刈り前、収穫前ということから稲穂に似たすすきになったとも言われている。これに対して、1ヶ月後の9月13日、収穫後の「十三夜」は日本発祥の月見で「芋名月」、「栗名月」とも呼ばれ、平安の頃よりあったとされている。十五夜と合わせて「二夜の月」と言われている。なお、月の満ち欠けが生物の誕生と死を連想させることから、先祖への感謝を伝える意味も含まれているという。日本人は四季折々に自然を感じて暮らしてきた。秋の美しい月を見上げて実りに感謝することは、稲作農耕民族ならではの風雅で素敵な行事といえる。

山形の「新四国八十八ヶ所霊場」

巡礼というとイスラム教の「メッカ巡礼」が真っ先に思い浮かぶ。仏教ではシャカにまつわるネパールのルンビニ、インドのブッダガヤやサールナート、キリスト教ではエルサレムとスペインのサンティアゴ デ コンポステーラ、ヒンディー教ではベナレスなどが思いつく。日本では四国八十八ヶ所霊場、西国三十三観音巡り、山形では最上三十三観音巡りなどなどである。なかでも、空海ゆかりの八十八寺院を巡る「四国八十八ヶ所霊場」巡りが広く知られている。開創が1,200年前とされている。今日の四国四県に渡り全長1,100~1,200 kmに及ぶ長大なものである。

当時の四国は京の都から遠く離れた辺境の地で修験者や僧侶の修業の場になっていた。空海が修行した足跡をたどる弟子たちによって四国遍路の原形が形成されたと言われている。悩みや現状打破、平穏無事を求めて四国八十八ヶ所巡る巡礼者を「お遍路さん」と呼んでいる。出で立ちは白装束に「同行二人」と書かれた菅笠姿である。同行とは言わずもがなお大師さまの空海である。

遍路のうち阿波国23カ所は発心の道場で、悟りに通じる心を起こす、即ち決心することから始まる。土佐国16カ所は修行の道場、伊予国の26カ所は菩提の道場、すなわち悟りの道場とされている。讃岐国の23カ所は涅槃の道場で悟りの世界を表わしているという。そして、これらの路を辿ることは、悟りの境地を絵に表した曼荼羅の上を歩くことでもあった。なお、巡礼の順序は特に定められていないが、一番札所から八十八札所に向かう時計回りを「順打ち」と言い、逆回りを「逆打ち」と称している。逆打ちの方が路に迷いやすいことから功德が多いとされ、高野山奥の院で瞑想中の弘法大師に会える機会が増すとされている。

このように有難い巡礼だが、東北の人々にとっては遠隔地ということもあり、なかなか出かけられない地であった。江戸の後期に山形に住む19歳の若者が、東北の人々にも気軽に参拝できるようにと八十八ヶ所を巡り、各寺院の土を持ち帰った。そして、それぞれの上の上に、それぞれのご本尊を石仏にして建立した「新四国八十八ヶ所霊場」が山形市千歳山南側に立ち並んでいる。平清水泉寺の奥、海拔210mの所に千歳山大日堂がある。巡礼路は右手から始まるが、左手の石段を登ると220mに白山大権現が建っている。ここの右手から巡礼路が設けられており、ここから登るのが順打ちで、270mの大日山展望所で大日堂からの逆打ちの巡礼路と合流する。どちらの登り口にも弘法大師像があり、合流する展望台にはひととき美しい弘法大師が巡礼者を見守っている。八十八ヶ所のご本尊は16ご神体で、最も多いのが薬師如来、2番目が十一面観音菩薩である。開創当時の人々の切なる願いが無病息災、健康であったことが思われる。

なお、県内にはもう一カ所、河北町谷地沢畑に「四国八十八ヶ所沢畑霊場」がある。江戸後期、有志が四国八十八ヶ所を巡礼し、その功德を村人にと思い沢畑山に石仏を安置したものとされている。こちらは一本の山路に沿って一番札所から両側に八十八番札所まで登りになっている。17基の常夜灯の建つ広場で終わる。

日本山岳会年次晩餐会と天皇陛下

日本山岳会恒例の晩餐会が12月第1週末に都内のホテルで行われる。参加者が500名を越す大規模なもので、50を越す各テーブルには日本各地の山名が付けられている。今年もその日が近づいてきた。徳仁天皇は皇太子時代の1987年から日本山岳会のメンバーであり、度々出席されていた。天皇に即位されたら無理だろうと囁かれていたが、2019年は天皇に即位されてから初めて参加された。全員が承知している天皇陛下だが、ネームプレートには「天皇陛下」と記され、会員の一人としての参加であった。従って、他のメンバーと同列で畏まった特別な挨拶などはなく、特別席なども設けられることもない。勿論、1番テーブルの「富士山」であるが、何処までもプライベートな参加である。表彰や紹介などで会員がステージに上がると、天皇を見下ろすことになる。他所では決して見ることのない珍しい光景である。皇太子の時、他の会員と共に法被姿で木槌を持ち鏡開きをされたことがあった。リラックスされて心底会を楽しまれている様子が覗かれた。

天皇陛下の1番テーブル「富士山」*1は、日本山岳会会長、日本山岳会スポーツクライミング協会会長、並びに今年活躍された日本・エクアドル遠征隊隊長、秩父宮記念山岳賞受賞者、北極・南極探検家、極地冒険家、ラカポシ*2南壁初登攀者とお世話役の学習院山岳部OBの9名であった。

晩餐会は18時から始まり、3時間ほど懇談を楽しまれた。会場のホテルを後にされる時、お見送りの日本山岳会会長とお世話役に「今日は楽しかった。有難う」の言葉を掛けられたという。予定の時間を大きく30分もオーバーしていたという。ホテル内の警護、皇居までの道路の警備を思うとこれも異例なことであった。

12月2日が天皇の娘さんの誕生日で、晩餐会と重なり出席できないことが時々あるのが残念である。天皇が会場に入られ、着席される時は、ほとんどSPの姿は目立たないが、退席のため立ち上がると同時に何処からともなく20数名のSPが現れ、前後左右を囲み、通路の両側に並ぶ様子は驚きであった。

皇太子だった1972年の歌会始で「山」のお題に「うちつづく土の山なみに幾筋も人とけものの通りこし道」と詠われている。また、1969年には日本山岳会の機関誌「山岳」に、「山と道」をテーマに寄稿されている。その分量が16,000字で30頁であった。「歴史と信仰の山を訪ねて」徳仁親王のタイトルとなって記載されている。“私は幼少の頃から、「道」というものに大変興味があつた。その発端は、小学生の時に私の住む赤坂御苑（赤坂御用地）内に鎌倉時代の古道が通っていることを知ったためである”からはじまっている。

2024年度の晩餐会は12/7で、グレートヒマラヤトラバース6th講演会に引き続き開かれる。

*1 日本山岳会年次晩餐会「1番テーブルの様子」芳賀孝郎氏の文から引用

*2 ラカポシ山（7,788m）カラコルム山脈西部、ラカポシ山脈の主峰